

5874

教授要目

付 研究指導要項

昭和 57 年度

小樽商科大学

小樽商科大学教授要目

目 次

学 年 暦

I 授業科目履修方法	1
1 昭和57年度開講科目	1
2 履 修 方 法	7
3 科目試験の受験について	29
II 教 授 要 目	30
1 一般教育科目	30
2 外国語科目	36
3 保健体育科目	58
4 基礎教育科目	62
5 専門教育科目	67
6 教 職 科 目	99
III 研究指導要項	103
IV 一般教育ゼミ	121

小 学 科 高 等 学 校 要 目

目 次

1 入学式
 2 2, 3, 4 年次開講
 3 新入生オリエンテーション
 4 1 年次開講
 5 履修届締切日
 6 創立記念日
 7 履修科目の取消期間
 8 夏季集中講義
 9 夏季休業
 10 臨時休業
 11 前期定期試験
 12 後期授業開始
 13 研究指導所属オリエンテーション
 14 研究指導募集期間
 15 履修科目の取消期間
 16 冬季休業
 17 卒業論文提出締切日
 18 学科課程所属オリエンテーション
 19 学科課程所属募集期間
 20 臨時休業
 21 後期定期試験
 22 卒業判定会議
 23 卒業式
 24 ドイツ語
 25 フランス語

学 年 科 目 曆 (昭和57年度)

昭和57年	4月17日(土)	入学式
	4月19日(月)	2, 3, 4 年次開講
	4月19日(月) ~ 4月21日(水)	新入生オリエンテーション
	4月22日(木)	1 年次開講
	5月13日(木)	履修届締切日
	7月7日(水)	創立記念日
	7月8日(木) ~ 7月20日(火)	履修科目の取消期間
	7月16日(金) ~ 7月22日(木)	夏季集中講義
	7月20日(火) ~ 8月31日(火)	夏季休業
	9月17日(金)	臨時休業
	9月18日(土) ~ 9月30日(木)	前期定期試験
	10月1日(金)	後期授業開始
	11月6日(土)	研究指導所属オリエンテーション
	11月8日(月) ~ 11月30日(火)	研究指導募集期間
	12月1日(水) ~ 12月11日(土)	履修科目の取消期間
	12月10日(金) ~ 58年1月20日(木)	冬季休業
昭和58年	1月31日(月)	卒業論文提出締切日
	2月1日(火)	学科課程所属オリエンテーション
	2月1日(火) ~ 2月9日(水)	学科課程所属募集期間
	2月10日(木)	臨時休業
	2月12日(土) ~ 2月28日(月)	後期定期試験
	3月15日(火)	卒業判定会議
	3月19日(土)	卒業式
	ドイツ語	
	フランス語	

(通年履修) 習 卒 学

大学入	(土) 日 11 月 1 日	第 1 期
編入卒業	(日) 日 10 月 1 日	
卒業	(木) 日 12 月 1 日	(日) 日 10 月 1 日
編入卒業	(木) 日 12 月 1 日	
日 出 産 業 学	(木) 日 12 月 1 日	
日 念 立 産 業 学	(水) 日 11 月 1 日	
開 講 前 項 の 目 録 参 照	(火) 日 10 月 1 日	(木) 日 8 月 1 日
英 語 中 級 学 習	(木) 日 10 月 1 日	(金) 日 31 月 1 日
英 語 学 習	(火) 日 12 月 1 日	(火) 日 10 月 1 日
英 語 学 習	(金) 日 11 月 1 日	
英 語 学 習	(木) 日 10 月 1 日	(土) 日 8 月 1 日
英 語 学 習	(金) 日 11 月 1 日	
開 講 前 項 の 目 録 参 照	(火) 日 10 月 1 日	(日) 日 8 月 1 日
開 講 前 項 の 目 録 参 照	(土) 日 11 月 1 日	(木) 日 1 月 1 日
英 語 学 習	(木) 日 10 月 1 日	(金) 日 31 月 1 日
日 出 産 業 学	(日) 日 10 月 1 日	
開 講 前 項 の 目 録 参 照	(火) 日 11 月 1 日	
開 講 前 項 の 目 録 参 照	(木) 日 10 月 1 日	(火) 日 1 月 1 日
英 語 学 習	(木) 日 10 月 1 日	
英 語 学 習	(日) 日 10 月 1 日	(土) 日 11 月 1 日
英 語 学 習	(火) 日 12 月 1 日	
英 語 学 習	(土) 日 10 月 1 日	

I 授業科目履修方法

1. 昭和57年度 開講科目

区分	授業科目	単位数	配当年次	担当教官	備考	
一般教育科目	人文科	哲学	4	I	渡辺(祐)教授	
		倫理学	4	II	渡辺(祐)教授	
		心理学	4	I	和田(完)教授	
		歴史学	4	II	栗生沢助教授	
		日本文学	4	I	村山教授	
	外国文学	ドイツ文学	4	I	中川教授	(前期) (後期)
		フランス文学	4	II・III	江口助教授 高橋助教授	
		ロシア文学	4	I	松本教授	
	社会科学系	社会科学概論	2	II	大江講師	(夏期集中講義)茨城大学教授
		社会学	4	II	安田講師	本学短期大学部講師
社会思想史		4	I	倉田教授		
政治学		2	I	山本講師	(夏期集中講義)北海学園大学教授	
自然科学系	物理学	4	I	原田教授		
	化学	4	I	斎藤教授		
	生物学	4	I	山田(家)教授		
外国語	英語	I	4	I	備考参照	
		II	4	II		
III		2	III			
外国語	ドイツ語	I	4	I	備考参照	
		II	4	II		
	フランス語	I	4	I	備考参照	
II	4	II				

語	外の外国語	中国語	{ I II	4 4	I II	高田助教授
		スペイン語	{ I II	4 4	I II	
		ロシア語	{ I II	4 4	I II	松本教授
保健体育科目	体育講義			2	II	{ A(前期) 森岡教授 B(後期) 教授
	体育実技	{ I II		2	I II	杉山教授 藤江教授 田野助教授 中川講師 小樽商業高等学校教諭
基礎教育科目	経済学概論			4	I	{ A(前期)加藤講師 (後期)藤井教授 B 鶴沢助教授 本学短期大学部講師
	商学概論			4	I	久野教授 (前期) 山下教授 (後期) 昭52年入学者は「概論」を「法科学」と読み替える。
	法学概論			4	I	清水講師 (前期) 道幸助教授 (後期)
	管理科学概論			4	I	樋口助教授 (前期) 沼田教授 (後期)
	数学			4	I	白川助教授
専門教育科目	経済学	統計学		4	II	久次教授
		数理統計学		4	III	久次教授
		経済原論 I		4	II	藤井教授
		経済変動論		4	III	増井(幸)教授
		経済原論 II		4	II・III	花田講師 本学短期大学部講師
		計量経済学		4	III	遠藤助教授
		経済史概論		4	II	井上教授
		日本経済史		4	III	長谷川助教授
		経済政策		4	III	小平助教授
		工業経済学 社会政策		4 4	III・IV III	吉武教授 吉武教授

専門教育科目	商業学科・商学コース科目	財政学		4	III・IV	早見教授
		国際経済論		4	III	佐竹助教授
		貿易政策		4	III・IV	麻田教授
		国際金融論		4	III・IV	足立教授
		金融経済論		4	III・IV	今助教授
		流通組織論		4	II	片桐講師
		マーケティング		4	III・IV	山下教授
		商品学		4	III・IV	斎藤教授
		国際マーケティング		4	III・IV	森田助教授
		商業英語		4	III・IV	北村講師
	商業学科・経営	保険論		2	III・IV	広海講師
		証券市場論		4	III・IV	石原(定)教授
		証券金融論		4	III・IV	鈴木教授
		経営学原理		4	II	真野講師
		企業形態論		4	III・IV	小田助教授
		経営管理論		4	II	鶴野助教授
		労務管理論		4	III・IV	林助教授
		産業心理学		4	III・IV	和田(完)教授
		経営史		4	III・IV	辻原助教授
		簿記学		4	II	{ A山本助教授 B松本講師
簿記演習		4	III・IV	渡辺(和)講師		
会計学		4	III・IV	久野教授		
管理会計		4	III・IV	中助教授		
原価計算		4	III・IV	福島講師		
財産法 I		4	II	神田教授		
財産法 II		4	III	松久講師		
民事訴訟法		4	III・IV	中島講師		
会社法		4	III	出口講師		
商取引法		4	III・IV	青竹助教授		
有価証券法		4	III・IV	石原(全)助教授		

専 門 目	法 学 コ ー ス 科 目	憲 法	4	Ⅱ	結城助教授	
		行政法Ⅰ	4	Ⅲ	秋山助教授	
		経済法	4	Ⅲ	和田(健)助教授	
		経済刑法	4	Ⅱ・Ⅲ	振津助教授	
		無体財産法	2	Ⅲ・Ⅳ	和田(健)助教授	(後期)
		労働法	4	Ⅲ	道幸助教授	
		環境法	4	Ⅲ・Ⅳ	飯塚助教授	
		国際法	4	Ⅱ	大谷教授	
		国際機構論	4	Ⅲ	丸山助教授	
		国際経済法	4	Ⅲ・Ⅳ	清水講師	
教 育 科 目	管 理 科 学 科 目	管理科学通論	6	Ⅱ	浅利講師	東海大学助教授
		管理科学Ⅰ	6	Ⅲ	若林助教授	
		管理科学Ⅱ	6	Ⅲ	樋口助教授	
		管理科学Ⅲ	6	Ⅲ	戸島教授 沼田教授	(前期) (後期)
		管理科学特講Ⅰ	3	Ⅲ・Ⅳ	清水川助教授	(前期)
		機械化会計	6	Ⅲ	山田(一)教授	
		事務機械化	6	Ⅱ	山田(一)教授	
		情報処理	6	Ⅲ・Ⅳ	杉本助教授	
		応用数学(代数)	6	Ⅱ	沼田教授	
		応用数学(解析)	6	Ⅱ	小林(正)講師	元北海道大学教授
教 職 科 目	研 究 指 導	応用数学(統計Ⅱ)	6	Ⅲ	清水川助教授	
		計算機論Ⅰ	6	Ⅱ	杉本助教授 若林助教授	(前期) (後期)
		計算機論Ⅱ	6	Ⅲ	戸島教授	
		研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	備考参照	
教 職 科 目	研 究 指 導	教育原理	4	Ⅲ	増井(三)助教授	
		商業科教育法	2	Ⅲ	横川講師	(後期) 札幌大学名誉教授
		英語科教育法	3	Ⅲ	下村助教授	
		道德教育の研究	2	Ⅲ	浅井講師	(前期) 北海道女子短期大学教授

教 職 科 目	教 育 実 習	教育実習	2	Ⅲ・Ⅳ	増井(幸)教授 福島講師 森田助教授 丸山助教授 若林助教授 増井(三)助教授 君羅助教授	
		教育史	4	Ⅱ	増井(三)助教授	
		職業指導	4	Ⅲ	石井講師	北海道教育大学教授
		英文学概論	4	Ⅱ	豊国教授	
		英文学演習Ⅱ	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	永原教授	(後期)
		英語学概論	4	Ⅲ	武本教授	(前期)
		英語学演習Ⅱ	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	浪田講師 北市講師	(前期) 北海道大学助教授 (後期) 北海道大学教授
		英会話・英作文	4	Ⅱ	M. カ一	

備考

★英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ担当教官名

武本教授, 豊国教授, 永原教授, 君羅助教授, 下村助教授, 市川講師, マイケル・エドワード・カー外国人教師, マリー・シェーファー外国人講師(札幌大学講師), エリザベス・C・ヘンデヴェルド外国人講師(小樽女子短期大学講師), R・デュエック(宣教師)

[非常勤講師]

高嶋講師(本学短期大学部教授), 大島講師(本学短期大学部講師), 脇田講師(札幌商科大学教授), 片山講師(北海道大学助教授), 小林(謙)講師(北海道武蔵女子短期大学教授), 鈴木講師(小樽女子短期大学助教授), 西村講師(小樽女子短期大学助教授), 北市講師(北海道大学教授), 浪田講師(北海道大学助教授)

★ドイツ語担当教官名

中川教授, 大塚講師, ライナー・プレッシュ外国人講師(北海道大学外国人教師)

[非常勤講師]

加納講師(北海道大学助教授), 筑和講師(北海道大学助教授), 石川講師(北海道大学講師), 高橋講師(北海道大学講師)

★フランス語担当教官名

江口助教授, 高橋助教授, ブリュノ・デュボワ外国人講師(北海道日仏学院講師)

[非常勤講師]

佐藤講師(北海学園大学助教授)

★研究指導担当教官名

[経済学科]

麻田教授, 足立教授, 井上教授, 早見教授, 久次教授, 藤井教授, 増井(幸)教授, 吉武教授

鶴沢助教授, 遠藤助教授, 佐竹助教授, 長谷川助教授

[商業学科・商学コース]

石原(定)教授, 久野教授, 斎藤教授, 篠崎教授, 鈴木教授, 山下教授, 和田(完)教授

鶴野助教授, 小田助教授, 辻原助教授, 中助教授, 林助教授, 森田助教授
福島講師

[商業学科・経営法学コース]

大谷教授, 神田教授

青竹助教授, 飯塚助教授, 石原(全)助教授, 道幸助教授, 振津助教授, 丸山助教授, 結城助教授, 和田(健)助教授

清水講師

[管理科学科]

戸島教授, 沼田教授, 山田(一)教授

清水川助教授, 杉本助教授, 樋口助教授, 若林助教授

2. 履修方法

学生は4年間在学し, 次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

- (1) 単位修得については, 各入学年度および各自が所属している, または, 所属しようとする学科・課程によって異なるので, 十分注意すること。
- (2) 2-(I)は昭和54年度以降入学者, 2-(II)は昭和53年度入学者, 2-(III)は昭和46年度～昭和52年度入学者, 2-(IV)は昭和42年度～昭和45年度入学者が適用される。また, 商業教員養成課程以外の学生で, 教員免許取得を希望する者は, 2-(V)及び2-(VI)を参照のこと。
- (3) 英語(I・II・III)は, 1年次毎週4時間4単位, 2年次毎週4時間4単位, 3年次毎週2時間2単位, 合計10単位が必修である。
- (4) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は, いずれか1か国語を選択必修とし, 1年次, 2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。
- (5) 保健体育科目の実技2単位については, 1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$, 2年次前期または後期に毎週2時間2単位の $\frac{1}{3}$, 計2単位, 講義については, 2年次前期または後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。
- (6) 英文学概論, 英文学演習II, 英語学概論, 英語学演習II, および英会話・英作文は高等学校教諭英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが, 卒業所要単位に算入されない科目として履修できる。
- (7) 研究指導は, 毎週3時間, 3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)である。なお, 履修方法は, 入学年度によって, 違いがあるので注意すること。

昭和53年度以前入学者にあっては, 所属する学科・コース・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を自由に履修することができる。

昭和54年度以降入学者にあっては, 原則として, 所属する学科・コースの研究指導を履修するものとする。商業教員養成課程に所属する学生は, 学科・コースの区分を問わず, 各自の志望する研究指導を履修することができる。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導分の12単位をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。

また, 商業教員養成課程に所属する学生にあっては, 経済学科・商業学科(各

コース)・管理科学科の専門教育科目によって充足しなければならない。

- (8) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で「高等学校2級普通免許状(商業・英語)」の取得を希望する者は、第20表(商業)、第21表(1)または(2)(英語)の単位をそれぞれ修得しなければならない。

また、「中学校教諭英語科1級」の免許状を希望する者は、第21表の(3)の単位を修得すること。ただし、管理科学科に所属する学生は「中学校教諭英語科1級」の免許状は取得できません。なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

- (9) 2年次から、いずれかの学科または課程に所属するが、1年次の終りまでに16単位以上を修得していない場合は、(ア)学科または課程に所属することができない。(イ)2年次配当科目の履修はできない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位数を在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

なお、(9)については、昭和56年度入学生から適用される。

- (10) 2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、(イ)3・4年次配当の専門科目の履修は認められない。(イ)研究指導に所属できない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位を在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。(昭和55年度以前入学者については、この単位を在学期間6年を経過しても修得できない場合は除籍になる)

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記

一般教育科目	28単位まで算入
外国語科目	16単位 "
体育(実技・講義)	4単位 "
基礎教育科目	8単位 "
専門教育科目	2年次配当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入。また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算入する。

- (11) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。

- (イ) 聴講出願対象者

学則に関する細則1.科目履修細則第5条に規定する〔1,2年次配当科目55単

位以上〕単位数を修得した57年4月現在の4年次生。

- (イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
北海道経済史	4	林	後期
企業行動論	4	小林	前期
監査論	4	大矢知	集中講義

- ① 「北海道経済史」は本学の経済学科の専門科目、「企業行動論」及び「監査論」は、本学の商業学科商学コースの専門科目として扱い、卒業単位数に算入する。

- ② 1科目につき、20名が限度。

(ウ) 聴講期間 昭和57年4月～昭和58年3月

(イ) 聴講料不要

- (12) 教職関係科目について

次のとおり開講するので、履修計画においては注意のこと。

科目名	昭和57年度	昭和58年度
教育原理	○	×
教育心理学	×	○
商業科教育法	○	×
英語科教育法	○	×
道德教育の研究	○	×
教育史	○	○
職業指導	○	○

○印=開講, ×印=非開講

2-(I) 昭和54年度以降入学者

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 {商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む。)
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位数に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法 2単位を含む) 管理科学概論 4
日本文学 4	政治学 4		数学 4
英文学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

ロ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに統計学, 経済原論I, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに経営学原理, 会計学, 管理科学通論, 応用数学(代数), 財産法I, 財産法II, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経済学科の研究指導を履修するものとする。
2. 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

第3表 商業学科・商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営史, 経営管理論, 簿記学, 会計学, 原価計算のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論I, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論, 財産法I, 財産法II, 会社法, 商取引法, 国際経済法, 管理科学通論, 機械化会計のうちいずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として商学コースの研究指導を履修するものとする。
2. 研究指導を履修しない者は、商学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

第4表 商業学科・経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営法学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに、憲法、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、経済法、経済刑法、労働法、国際法のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、労務管理論、会計学、経済原論Ⅰ、経済史概論、経済政策、国際経済論のうちいずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経営法学コースの研究指導を履修するものとする。
2. 研究指導を履修しない者は、経営法学コースの科目についてさらに12単位を履修しなければならない。

※ 昭和55年4月1日の学則変更により、40単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第5表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに管理科学通論、管理科学Ⅰ、管理科学Ⅱ、管理科学Ⅲ、機械化会計、応用数学(代数)、応用数学(解析)、計算機論Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
経済学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学、財産法Ⅰのうちいずれか1科目を含める。
商業学科 商学コース科目		
商業学科 経営法学コース科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として管理科学科の研究指導を履修するものとする。
2. 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

第6表 商業教員養成課程

区分	単位数	内容
専門教育科目 経済学科、商業学科(商学コース、経営法学コースを含む)、管理科学科の全科目。	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、財産法Ⅰ、会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上含める。
教職科目	20	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、教育実習、職業指導を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生は、学科・コースの区分を問わず各自の志望する研究指導を履修することができる。
2. 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科(商学コース、経営法学コースを含む)、管理科学科の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。

2—(II) 昭和53年度入学生

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第7表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	内容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義，体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 {商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む)
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち，外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	法学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	(日本国憲法) 2単位を含む 管理科学概論	4
日本文学	4	政治学	4			数学	4
英文学	4						
ドイツ文学	4						
フランス文学	4						
中国文学	4						
ロシア文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
7科目28単位以上							

ロ 専門教育科目の履修方法

第8表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学，経済原論I，経済政策，経済史概論，国際経済論，金融経済論のうちいずれか3科目を含める。
商業学科 商学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理，会计学，応用数学(代数)，応用数学(解析)，財産法I，財産法II，会社法，商取引法のうちいずれか2科目を含める。
商業学科 経営学コース科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に，「マーケティング」を「販売管理」に，「経営管理論」を「生産管理」に，「財産法I」を「民法I」に，「財産法II」を「民法II」に，「会社法」を「商法I」に，「商取引法」を「商法II」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学I」に，「英文学概論」を「英文学II」に，「英文学演習I」を「英語(上級II)」に，「英文学演習II」を「英語(上級IV)」に，「言語学概論」を「英語学I」に，「英語学概論」を「英語学II」に，「英語学演習I」を「英語(上級I)」に，「英語学演習II」を「英語(上級III)」と読み替える。

第9表 商業学科 商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	36	「研究指導」を除いた科目。
商業学科 経営 法学コース科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科商学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第10表 商業学科 経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営法学コース 科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに憲法, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 経済法, 経済刑法, 労働法, 国際法のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理論, 労務管理論, 会計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論のうちいずれか2科目を含める。
経済学科科目		
管理科学科科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科経営法学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

※昭和55年4月1日の学則変更により、36単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第11表 管理科学科

区 分	単位数	内 容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに、統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科 商学コース科目		
商業学科 経営 法学コース科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第12表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ, 統計学, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 計算機論Ⅰ, 事務機械化, 財産法Ⅰ, 会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教 職 科 目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科, 商業学科, 管理科学科の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

2—(Ⅲ) 昭和46年度～昭和52年度入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第13表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	内容
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義，体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 { 商業教員養成課程にあつては法学概論(日本国憲法2単位を含む)
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち，外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法) 2単位を含む
日本文学 4	政治学 4		管理科学概論 4
英文学 4			数学 4
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

(注) 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。

ロ 専門教育科目の履修方法

第14表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学，経済原論I，経済政策，経済史概論，国際経済論，金融経済論のうちいずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理，会计学，応用数学(代数)，応用数学(解析)，財産法I，財産法II，会社法，商取引法のうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論I」を「経済原論」と，「経済原論II」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に，「マーケティング」を「販売管理」に，「経営管理論」を「生産管理」に，「財産法I」を「民法I」に，「財産法II」を「民法II」に，「会社法」を「商法I」に，「商取引法」を「商法II」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学I」に，「英文学概論」を「英文学II」に，「英文学演習I」を「英語(上級II)」に，「英文学演習II」を「英語(上級IV)」に，「言語学概論」を「英語学I」に，「英語学概論」を「英語学II」に，「英語学演習I」を「英語(上級I)」に，「英語学演習II」を「英語(上級III)」と読み替える。

第15表 商業学科

区分	単位数	内容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。
管理科学科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第16表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目。
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかには、統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。

昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

第17表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ, 統計学, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 計算機論Ⅰ, 事務機械化, 財産法Ⅰ, 会社法のうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教 職 科 目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習を必修とする。
研 究 指 導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係の各科目から, さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と, 「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。
昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に, 「マーケティング」を「販売管理」に, 「経営管理論」を「生産管理」に, 「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に, 「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に, 「会社法」を「商法Ⅰ」に, 「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。
昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に, 「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に, 「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に, 「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に, 「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に, 「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に, 「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に, 「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。

2—(Ⅳ) 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第18表 経済学科・商業学科および管理科学科

区 分	単位数	内 容	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	8	2科目以上
	自然科学系	8	2科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	{ 英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目	
保健体育科目	4	実技, 講義	
基礎教育科目	16	経済学概論, 商学概論, 管理科学概論, 数学	
合 計	66		
備考	一般教育科目(人文科学系)のうち, 日本文学および外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲 学 4	社会科学概論 4	物 理 学 4	経済学概論 4
倫 理 学 4	社 会 学 4	自然科学概論 4	商 学 概 論 4
心 理 学 4	社会思想史 4	化 学 4	法 学 概 論 4
歴 史 学 4	政 治 学 4	生 物 学 4	(日本国憲法) 2単位を含む 管理科学概論 4
日本文学 4	教 育 学 4		数 学 4
外 国 文 学			
英 文 学 4			
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
3科目 12単位	2科目 8単位	2科目 8単位	全科目 必修
7科目 28単位			4科目 16単位
(注) 昭和52年度以前入学者は「経済学概論」, 「法学概論」, 「数学」を一般教育科目「経済学概論」, 「法学」, 「数学」と読み替える。			

□ 専門教育科目の履修方法

第19表 経済学科

区分	内容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法Ⅰ, 商法Ⅰ	28
選択科目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	
	研究指導	
計		12
卒業所要単位		80
備考	<p>○ 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。</p> <p>○ 「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。</p> <p>○ 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「マーケティング」を「販売管理」に、「経営管理論」を「生産管理」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「財産法Ⅱ」を「民法Ⅱ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」に、「商取引法」を「商法Ⅱ」と読み替える。</p> <p>○ 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英文学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。</p>	

[注] 別表第1とは学則第11条の別表第1を示す。

2-(V) 第20表 商業教員免許取得希望者の単位修得方法

区分	単位数	必修科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)
教職に関する専門科目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育実習, 教育史
教科に関する専門科目	4	職業指導
	16	統計学, 経済原論Ⅰ, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 事務機械化, 計算機論Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社法(4科目選択)
合計	40	
備考	<p>1. この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので、それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。</p> <p>2. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。</p> <p>3. 昭和53年度以前入学者は「流通組織論」を「マーケティング」に、「財産法Ⅰ」を「民法Ⅰ」に、「会社法」を「商法Ⅰ」と読み替える。</p>	

2-(VI) 第21表 英語科教員免許取得希望者の単位修得方法

(1) 高等学校教諭の場合(昭和56年度以後入学生)

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する専門科目	36	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4 英会話・英作文 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
教職に関する専門科目	17	教育原理, 教育心理学, 英語科教育法, 教育実習, 教育史	
合計	57		
備考	<p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。</p> <p>2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、20表, 21表両方の場合に併用できる。</p>		

(2) 高等学校教諭の場合 (昭和55年度以前入学生)

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する専門科目	32	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
教職に関する専門科目	17	教育原理, 教育心理学, 英語科教育法, 教育実習, 教育史	
合計	53		

備考

- それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。
- 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、20表、21表両方の場合に併用できる。
- 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を「法学」と読み替える。
- 昭和55年度以前入学者は「英文学史」を「英語学Ⅰ」に、「英文学概論」を「英文学Ⅱ」に、「英文学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅱ)」に、「英文学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅳ)」に、「言語学概論」を「英語学Ⅰ」に、「英語学概論」を「英語学Ⅱ」に、「英語学演習Ⅰ」を「英語(上級Ⅰ)」に、「英語学演習Ⅱ」を「英語(上級Ⅲ)」と読み替える。
- 「英会話・英作文」については、昭和56年度入学者から修得するものとする。

(3) 中学校教諭の場合

上記(1)(2)の「教職に関する専門科目」のほか、さらに「道德教育の研究」2単位を修得すれば、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語科一級普通免許状をも修得できる。

5. 科目試験の受験について

定期試験(前期、後期)およびこれに準ずる試験を受験する場合、次の注意事項を厳守して、不利益をうけることのないよう十分留意してください。

受験に際しての注意事項

- 指定された席に着席すること。(指定の席は、履修届により決定され、また試験開始5分前には着席していること)
- 身分証明書の携帯がなければ受験できない。(座席の右前方におくこと)
- 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし、20分以内の遅刻者は、事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
- 試験開始20分以内は退場できない。
- 試験終了10分前以後は退場できない。
- 教科書、参考書、ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め、これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
- 教科書、参考書、ノートなどの参照を許された試験においては、それらの貸借をしてはならない。受験生の間で、貸借のあった場合は、それを不正行為とみなす。
- 試験において、私語、その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
- 試験中の不正行為については、学則に照して処分されるから厳正な態度で受験すること。
- 配布された答案用紙は必ず提出し、これを持ち帰ってはならない。
- その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

[注] 定期試験に準ずる試験では席を指定しないこともあります。

Ⅱ 教授要目

1 一般教育科目

哲学

教授 渡辺祐邦

古代ギリシャの自然哲学から、現代哲学にいたる主要な哲学思想について毎年一マを変えてお話しします。今年は昨年度にひきつづき、ヘーゲルの弁証法的論学についてお話ししますが、単にパッシブに知識をうけとり、暗記するのではなくアクティブに思考する習慣を養うために、テキストを読みながら討論すると云う方をとります。このため受講者は、あらかじめ指定されたテキストの部分について充分考えて教官の質問に答えなければならず、毎週レポートの提出を要求されま講義のほか、文献研究を主とするグループを設けますが、その詳細は最初の時に説明します。どちらに参加しても良く、途中で変更することも自由です。

講義用テキスト：

ヘーゲル「小論理学」上、下、松村一人訳、岩波文庫

(文献研究のテキストは、のちほど本人に直接さしあげます)

倫理学

教授 渡辺祐邦

「共同存在」としての人間の存在論的構造に関するヨーロッパ倫理学の古典的作を読みながら、現代における生と実存の意味について考察します。今年度は、年度にひきつづきアリストテレスの『政治学』をテキストとして取り上げます。邦訳とともにギリシャ語の原文を併用するので、ギリシャ語文法に関する簡単な習を当初に行います。

テキスト：

アリストテレス『政治学』、山本光雄訳、岩波文庫

田中美知太郎・松平千秋『ギリシャ語入門』岩波全書

参考書：

アリストテレス『形而上学』上・下(岩波文庫)、同『ニコマコス倫理学』上・下(岩波文庫)など。

ギリシャ語の辞書は特に必要ないが、もし参照したいならば次のものが比較的入りやすい。Liddell and Scott, *Intermediate Greek Lexicon*.

(Oxford U.

心理学

教授 和田 完

心理学の基本的性格を平易に解説し、基礎的法則や概念を理解してもらうことを目標に授業を進める。まず、行動科学としての成立を史的見地に立って説明し、動機づけ、学習、知覚、人格などの話題を提供するだろう。また心理学に関する映画が教材として利用される。

テキスト：

和田、馬場「人間」明玄書房

歴史学

助教授 栗生沢 猛 夫

日本文学 A・B

教授 村山 出

『万葉集』を取り上げます。今年度は、山上憶良を中心に奈良前期万葉をめぐって考える予定ですが、作品を丹念に読み、研究史的な問題にも触れるつもりですから、かなりの根気を要します。

教科書：

森淳司編『訳文万葉集』笠間書院

ドイツ文学

教授 中川 勇 治

まずドイツ文学へのアプローチとして、文学とは何か、ドイツ的なものとは何かという問題を考えてみます。つづいて、ドイツ文学の歴史的な流れを概観しながら、その代表的な作家や作品を紹介しますが、ゲーテ以降の時代に重点を置きます。受講者はかならずしもドイツ語の知識を必要としませんが、講義の中で取り扱われる

作品は、翻訳を通してでも読んでください。

参考書：

手塚富雄『ドイツ文学案内』（岩波文庫）

フランス文学

（前期）助教授 江口 修
（後期）助教授 高橋 純

前期は、フランス現代詩、特に第1次世界大戦後から今日までを中心に、フランス詩精神の流れを概観する。特に仏語の力を必要としない。授業で指示する作品は、翻訳でよいからできる限り読むように。

後期は未定。

ロシア文学

教授 松本 忠司

講義は大きく二つの部門に分けられる。

- (I) 第一の部門は、ロシア文学の成立と展開をめぐる諸問題を取り扱う。
- (1)インテリゲンツィヤの成立とその背景 (2)批判的リアリズムの成立とその発展(プーシキンとゴーゴリを中心に) (3)農奴解放期の文学(ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエーフスキイを中心に) (4)世紀末の文学(チェーホフを中心に)
- (II) 第二の部門は、ゴーリキイと19世紀末ないし20世紀初頭のロシア文学の諸問題を取り上げ、マクシム・ゴーリキイの生涯と文学創作を中心的に検討しながら、文学と人間・時代・社会のかかわり合いを考究していく。
- 受講者に対しては、ロシア語の知識は要求しないが、指定された文学作品・文庫を読むこと、および課題によるレポートの提出を求める。参考文献については随時講義のなかで示すが、さしあたり(I)の部門の文学史的流れに関して、金子幸彦著「ロシア文学案内」(岩波書店)、作家論として、草鹿・松本ほか著「ロシア文学の世界」(文化書房博文社、改訂版が5月刊の予定)を、(II)については松本忠司「ゴーリキイ研究(I)作家への道」(理想社、ただし絶版のため希望者は担当者に連絡されよ)、同編訳「ゴーリキイ文芸書簡」〔全2巻〕(光和堂)、ビャーリク著山村房次訳「ゴーリキイの運命」〔上・下〕(新日本出版社)をあげておく。

社会科学概論

非常勤講師 大江 志乃夫
(茨城大学教授)

社会学

非常勤講師 安田 尚
(小樽商科大学短期大学部講師)

「不確性の時代」、「不可視の状況」、「危機の時代」といわれる今日の時代認識を究極の課題としつつ、理論社会学の源流、古典であるM・ウェーバー、E・デュルケーム、K・マルクス等を手がかりに、「社会と個人」の問題を社会科学的に解明することが本講義のねらいである。これら古典的学説は、近代市民社会の成立と共に形成されながらも、常にこの社会が作り出す諸矛盾の克服にその課題を設定して来た。混迷と危機の時代を見通す社会科学的認識にとってこれらの古典は有効な手がかりを与えるにちがいない。

更に、現代日本の現状分析としては、日本の階級構造の分析、地域社会の構造、企業組織の日本的特質、現代における貧困化、大衆社会状況における社会意識の様相を解明する。

テキスト：

細谷昂、八木正編『現代社会学の視界』、アカデミア出版会

社会思想史

教授 倉田 稔

講義名は、AとBとに分かれています。内容はまったくちがいます。一方は、講義であり、他方は、演習です。どちらがどうなるかは、最終的に時間割ができ上ってから、決まります。

演習では、比較的長い論文を、自分の好きなテーマにもとづいて書いていただくこととなります。授業のすすめ方は、しかし、参加者の人数と希望とによって決め

ます。

講義の方は、第1回目は、授業の進め方、勉強の方法、その他を話します。授業の内容とやり方は、毎年ちがっています。今年は、さしあたり、第2回目から、次の問題を話します(順不同)。おそらく前期でおわるでしょう。

1. 政治資金 2. オランダ共和国黄金時代 3. ヨーセフ2世
4. 1848年農民解放令 5. 世紀転換期ウィーン 6. スイスのレーニン
7. ワイマール共和国 8. ナチズムとスターリニズム 9. ポーランド問題

後期は、上の問題がおわってから、受講者のグループ分けによる自主研究、個人的自主研究、のどちらかをおこなうか、あるいは、それを加えながら、中世からの社会思想の講義をおこなうつもりです。

どちらもテキストはつかいません。補助テキストとして「社会経済思想史文献(1)

政治学

非常勤講師 山本佐門

(北海学園大学法学部教授)

二つの世界大戦、ロシア革命、ナチズム等ヨーロッパ現代政治史の重要事件を素材として、「政治現象」の特色を理解しようとするのが本講義である。

基本参考書：

- 中公文庫『世界の歴史』13巻(帝国主義の時代)、14巻(第一次大戦後の世界)
15巻(ファシズムと第二次大戦)、野田宣雄著『ヒトラーの時代』(上・下巻
講談社文庫)、河野健二著『ファシズムと社会主義』(TBSブリタニカ)

物理学

教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説をジョージガモフ著「現代の物理学—量子論物語」(河出書房新社)にそって行う予定。

化学

教授 斎藤 要

化学は一つの教育体系をもった学問であるが、一般教育課程での化学は、その体系を希釈したり、あるいは一部を拡大して学ぶことが多い。

本年度は基礎化学領域として、化学の近代化の歩み(17世紀以降)のなかで展開された元素、原子、分子についての唯物論的思考と基本的法則について検討する。また応用化学領域として放射能化学の立場から原子力利用と、その発展がもたらす諸問題を論ずる予定である。

なお、テキストは使用しないが、参考書は講義のなかで紹介する。さらにおり

みて実験も予定している。

生物学 A, B

教授 山田家正

本年度のAとBは講義内容が異なるので下記をよく読んでから履修届を出すこと。

生物学A：一般生物学的な内容で、生命科学の基礎として、生命の存在様式、細胞の進化、種と分化、生態学的諸問題などをとりあげる。教科書は用いない。

生物学B：生物学をより深く自主的に学びたい者を対象とする。講義形式などについては受講者数が決定してから考える。内容は進化学と生態学に重点をおくがミクロからマクロレベルまで広く題材を求める予定。論文の講読も行う。

臨海実習：A・Bとも9月上旬にウニの受精と発生の観察を北海道大学臨海実験

所(小樽市忍路町)に於て行う。原則として全員参加。

2 外国語科目

英語

(A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第1条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和57年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。は文学作品の講読。1は評論, 伝記, 語学書等の文学作品以外の講読で、2は会話作文等、3は文法である。1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは表A群より2単位、B群より2単位、合計4単位を選択履修し、英語IIは講読2単位と他クラスの講読か会話、作文等のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIIは講読2単位を選択履修すること。
- (6) 履修する学生は教授要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課教務の窓口へ提出すること。詳細について別途指示する(学生課の掲示に注意)なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表 (昭和57年度英語クラス)

英語 I - A 群			英語 II			英語 III		
講 読 及 び 文 法	文 学 作 品	E 101 永原	講 読	文 学 作 品	E 201 永原	講 読	文 学 作 品	E 301 永原
		E 102 豊国			E 202 豊国			E 302 豊国
		E 103 君羅			E 203 豊国			E 303 君羅
		E 104 市川			E 204 君羅			E 304 市川
		E 105 市川			E 205 君羅			E 305 西村
評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 111 (前期)武本 (後期)未定	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 211 (前期)武本 (後期)未定	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E 311 (前期)武本 (後期)未定	
	E 112 下村			E 212 下村			E 312 高嶋	
	E 113 下村			E 213 大島			E 313 (前期)浪田 (後期)北市	
	E 114 君羅			E 214 小林			E 314 小林	
	E 115 高嶋			E 215 西村				
英語 I - B 群								
講 読	文 学 ・ 評 論	E 106 脇田	講 読	文 学 ・ 評 論	E 107 脇田	講 読	文 学 ・ 評 論	E 108 大島
		E 116 大島						
会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 121 Carr	会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 221 Carr	会 話 ・ 作 文	会 話 ・ 作 文	E 222 Carr
		E 122 Carr			E 223 Schaefer			
		E 123 Carr						
		E 124 Carr						
		E 125 Schaefer						
		E 126 Schaefer						
		E 127 Hengeveld						
E 128 Dueck								
E 129 Dueck								
文 法	E 131 下村							

英 語 I

〔英語共通試験実施要領〕

英語 I-A 群クラスの履修と単位認定について

1. 英語 I は A 群より 2 単位, B 群より 2 単位, 合計 4 単位を選択履修すること
2. 英語 I-A 群の履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
3. 共通試験は, 前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
4. 英語 I-A 群の各クラスの単位は, クラスの成績と共通試験の成績とにより, クラス担当教官が認定する。
5. 課外テキスト

小川芳男・上野伊栄太『高等英文法』有精堂

※昭和 54, 55, 56 年度生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は 57 年度生の修方法に準ずる。53 年度以前の学生で英語 I の未修得者は, 教務係と相談の上履修方法を定めること。英語 I の単位未修得者は, I-A 群のクラスにかえて 131 を選択してよい。

A 群

○ E 101 教授 永原和夫

John Steinbeck: *The Pearl* (北星堂書店) ¥950

Ernest Hemingway: *The Old Man and the Sea* (南雲堂) ¥780

○ E 102 教授 豊国孝

H. B. Bates: *The Wedding Party and Other Stories* (金星堂) ¥600

W. S. Maugham: *Episode and The Romantic Young Lady* (南雲堂)

○ E 103 助教授 君羅久則

Contemporary British Masterpieces (金星堂) ¥780

British Short Stories of Today (成美堂) ¥800

下記の 12 編の現代イギリス短編小説のうち 10 編程読む予定。

Alan Sillitoe: *On Saturday Afternoon*

John Wain: *The Two Worlds of Ernst*

Muriel Spark: The Twins

Graham Green: *Across the Bridge*

Frank O'Connor: *My Oedipus Complex*

Evelyn Waugh: *Mr Loveday's Little Outing*

Elizabeth Bowen: *A Day in the Dark*

Elizabeth Bowen: *The Demon Lover*

Evelyn Waugh: *On Guard*

Angus Wilson: *Sister Superior*

Kinglsey Amis: *Interesting Things*

Margaret Drabble: *Crossing the Alps*

○ E 104 }
○ E 105 }

講師 市川真理子

John Galsworthy: *Indian Summer of a Forsyte* (Kenkyusha)

出席を重視する。ただし, 授業に積極的に参加しない者は出席と見做さない。

○ E 111

(前期) 教授 武本昌三

(後期) 未定

John C. Condon: *Interpreting Culture* (成美堂)

○ E 112 }
○ E 113 }

助教授 下村五三夫

Farley Mowat: *The Boat Who Wouldn't Float* (Bantam Books, Inc.)

Farley Mowat's funniest book—this is the true story of his mis-adventures on his leaky, old schooner, *Happy Adventure*, and the rugged breed of people he met in the remote fishing ports of Newfoundland.

○ E 114

助教授 君羅久則

(1) C. Day Lewis: *Poetry for You* (南雲堂) ¥780

(2) *A Book of English Poetry* (北星堂) ¥950

(1) は英詩の入門書。(1) を読みながら並行して(2) の詩集によって英詩をいくつか味読する予定。その際に参考書・注釈書が必要になるが, これについては本学図書館蔵のものから選んで, オリエンテーションの時間に説明するので, 履修希望

者は必ず出席すること。

○ E 115

非常勤講師 高 嶋 稔
(小樽商科大学短期大学部教授)

テキスト

- (1) P. Milward, *This Impossible Language* (金星堂)
- (2) I. Asimov, *Words From History* (弓書房)
- (3) B. Foster, *The Changing English Language* (成美堂)

英文を読んで、その内容を正確に理解できる能力を身につけることと、英語はどのような言語か、という問いに解答を得ようとするのがこのクラスの目的である。

この E 115 のクラスでは「大学での英語は学生自身が学習するのであって教師から習うのではない」という考え方を採る。従って、学生が教室に出席する前に、必ずテキストを精読し、英文の理解や内容についての疑問点と問題点をまとめてクラスに提出して、出席者全員で討論しながらその解答を得ることとなる。

時間が限られているので、教室では英語を日本語におきかえる、いわゆる語訳はしない。学生の自主的、積極的な勉強を前提としてクラスでの学習をすすめる。テキストの内容その他については、最初の時間に詳細に話すので、修希望者は必ず出席されたい。

B 群

○ E 106 }
○ E 107 }

非常勤講師 脇 田 勇
(札幌商科大学教授)

William Somerset Maugham: *The Kite & Other Stories* 中野好夫編
(英宝社) ¥ 81

○ E 116

非常勤講師 大 島 稔
(小樽商科大学短期大学部講師)

Robin Lakoff.: *Language and Woman's Place* (英宝社) ¥ 850

テキストの内容は、英語を例として、ことばの社会的な面を論じたものである。予習には、英語の構文・語法に細部にまで注意を払って読むこと。教室では、予習してきたことを確認し、日本語において、著者の論ずる所が、あて

まるかどうかを討論してもらおう。

○ E 121 }
○ E 122 }
○ E 123 }
○ E 124 }

小樽商科大学外国人教師 Michael Carr

Brian Abbs/Ingrid Freebairn: *Starting Strategies* (Longman)

This course emphasizes practice in English conversation. Class participation and attendance are required. More than five unexcused absences will automatically result in failure. Attendance in both the classroom and the language laboratory is mandatory.

○ E 125 }
○ E 126 }

外国人講師 Marrie Schaefer
(札幌大学講師)

Modern English an Oral Approach: revised edition, Book 7 and Charts and Pictures (Seido Language Institute)

These are classes in spoken English. Classroom work will emphasize active participation in oral drill and conversation. Therefore weekly class participation is important and attendance is required. More than 5 absences will result in failure. Students are also required to attend the Language Laboratory to listen to each week's lesson. Lessons from the textbook must be *memorized* so that correct responses can be given without the text. No mid-year or final examination will be given. Grades will be determined by *class participation*, occasional classtime quizzes and LL tests.

○ E 127

外国人講師 E. C. Hengeveld
(小樽女子短期大学講師)

Building Strategies (Longman)

○ E 128 }
○ E 129 }

外国人講師 Ruth Dueck
(宣教師)

J. C. Richards, M. N. Long : *Breakthrough I, A course in English communication Practice* (Oxford University Press) Tapes

In these classes the emphasis is on communication in English. Therefore class participation and attendance are required. More than 5 absences will result in failure.

○ E 131

助教授 下村 五三夫

A. S. Hornby: *Guide to Patterns and Usage in English* (Oxford University Press)

文法, 特に統語法の徹底的な指導をいたします。

英 語 II

○ E 201

教授 永原 和夫

James Joyce: *Dubliners* (南雲堂) ¥ 960

James Joyce: *Araby & Other Stories* (南雲堂) ¥ 560

○ E 202 }
○ E 203 }

教授 豊国 孝

H. E. Bates: *Colonel Julian and Other Stories* (研究社) ¥ 630

D. H. Lawrence: *Second Best and Another Story* (北星堂) ¥ 650

○ E 204 }
○ E 205 }

助教授 君羅 久則

Twentieth-Century British Authors (金星堂) ¥ 850

Twentieth-Century British Authors Vol. II. (金星堂) ¥ 890

下記の現代イギリス短編小説を含む。下記の順序で10編とも読む予定。

Kingsley Amis: *Interesting Things*

John Wain: *The Valentine Generation*

Alan Sillitoe: *The Bike*

Edna O'Brien: *The Rug*

Susan Hill: *How Soon Can I Leave?*

V. S. Pritchett: *The Cage Birds*

Frank O'Connor: *Judas*

Angus Wilson: *The Wrong Set*

Muriel Spark: *The Dark Glasses*

Doris Lessing: *The Woman*

○ E 206 }
○ E 207 }

講師 市川 真理子

William Shakespeare: *Julius Caesar* The Arden Edition, ed. T. S. Dorsch, (Methuen)

1. C. P. Onions, *A Shakespeare Glossary* (Oxford University Press) も上記テキストと同時に購入すること。
2. 出席を重視する。ただし、授業に積極的に参加しない者は出席と見做さない。

○ E 208

非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)

Bernard Malamud: *Man in the Drawer* (英宝社) ¥ 860

ちなみに、B. Malamud は現代アメリカの小説家である。

○ E 209

非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)

Scott Fitzgerald: *Last Kiss & Other Stories* (篠崎書林) ¥ 750

ちなみに、S. Fitzgerald は二十世紀アメリカの小説家である。

○ E 211

(前期) 教授 武本 昌三
(後期) 未定

Donald Keene: *Confessions of a Japanologist* (朝日出版社)

○ E 212

助教授 下村 五三夫

Robert Goldston: *The Life and Death of Nazi Germany*

(Fawcett Premier) 2.25 \$

".....extraordinarily welcome. It splendidly performs the task a work of history should perform...I offer the highest possible praise."
-The New York Times

○ E 213

非常勤講師 大島 稔
(小樽商科大学短期大学部講師)

Joan McConnell: *Language and Culture* (成美堂) ¥830

題名の示すように、内容は、『言語と文化』についてである。英語の構文語法を徹底的に調べた上で授業に臨むことは、もちろん、ことばと文化の関について考えてきてもらう。

○ E 214

非常勤講師 小林 謙一
(北海道武蔵女子短大教授)

Chris Mosdell: *Strange Neighbours* (金星堂) ¥930

ロンドンでは日本製の車が大衆車となり、和食の進出も目ざましい。東京はファースト・フードが飛ぶように売れ、シェイクスピア劇は歌舞伎以上の気を博している。交通・通信手段の発達により、地理的に対極にあった二つ島国・日本と英国は、今やひとつの文化、ひとつの価値観を共有しているかのように見える。しかし、と著者は問いかける。根本において両国のそれぞれ生活様式は不変ではないのか。東洋と西洋はやはり「遠い知人、見知らぬ隣」の関係にとどまり続けるのではないか。本書はこのような立場で日本と英国文化を比較・研究している。

演習科目であるので、①出席を重要視する。②日常の授業時の平常点と、月行うテストおよび期末テストにより評点・評価する。

○ E 215

非常勤講師 西村 千稔
(小樽女子短期大学助教授)

文学批評集を講読する。対象作家は、アメリカの1930年代の代表的作家 John Steinbeck である。彼には『エデンの東』や『怒りのぶどう』などの品があるが、彼の短編に関する数人の批評家の文学批評を取り扱う。テキストはプリントして教室で配布するが、それ以外に作家自身の作品三冊をあらかじめ読んで予備知識をつけてもらう。

○ E 216 }
○ E 217 }

非常勤講師 鈴木 良克
(小樽女子短期大学助教授)

Herman Kahn & Others: *Problems of The World Today*

(北星堂) ¥650

○ E 221 }
○ E 222 }

外国人教師 Michael Carr

Brian Abbs/ Ingrid Freebairn: *Building Strategies* (Longman)

This course emphasizes practice in English conversation. Class participation and attendance are required. More than five unexcused absences will automatically result in failure. Attendance in both the classroom and the language laboratory is mandatory.

○ E 223

外国人講師 Marrie Schaefer
(札幌大学講師)

Modern English an Oral Approach: revised edition, Book 8 and Charts and Pictures (Seido Language Institute)

This is a class in spoken English. It is particularly for those students who wish to develop and improve their speaking ability. Classroom work will emphasize oral drill and conversation. Therefore weekly class participation is important and attendance is required. More than 5 absences will result in failure. Students are also required to attend the Language Laboratory to listen to each week's lesson. Lessons from the textbook must be *memorized* so that correct responses can be given without the text. No mid-year or final examination will be given. Grades will be determined by *class participation*, occasional classtime quizzes and LL tests.

英語Ⅲ

○E 301 教授 永原和夫
James Joyce: *A Portrait of the Artist as a Young Man*
(Eichosha-Penguin Books) ¥1,200

○E 302 教授 豊国孝
D. H. Lawrence: *The Fox* (成美堂) ¥780
D. H. Lawrence: *The Lovely Lady and Other Stories*
(成美堂) ¥780

○E 303 助教授 君羅久則
John Wain: *Hurry on Down* (Eichosha-Penguin Books)
(英潮社) ¥1,600

1925年生まれ、著者が28歳の時に書いた処女作(小説)を1年間かけて読む

○E 304 講師 市川真理子
William Shakespeare: *Macbeth* The Arden Edition, ed. Kenneth Muir (Methuen)
1. C. T. Onions, *A Shakespeare Glossary* (Oxford University Press) も上記テキストと同時に購入すること。
2. 出席を重視する。ただし、授業に積極的に参加しない者は出席と見做さな

○E 305 非常勤講師 西村千稔
(小樽女子短期大学助教授)

「サローヤン短編集」江草久司註解 (成美堂) ¥850

アメリカの1930年代の代表的作家 William Saroyan の短編を扱う。彼アメリカの minority と見なされているアルメニア系の作家である。彼の作には、圧政と虐殺によって滅ぼされた民族の歴史とアメリカにおける minority の一員としての生活を背景として、彼独特の手法とペースを持って、必死になって生きて行こうとする子供達が描かれている。

授業は解釈を中心として進めていく。

○E 311 (前期) 教授 武本昌三
(後期) 未定

K. Hasegawa (ed): *Japan and I* (金星堂)

上記のテキストを中心に、reading, writing, hearing, speaking の all-round な practice を行なう。授業の大半はテキストなしで行なわれるので、このクラスに出るためには、十分な復習と予習が不可欠である。

○E 312 非常勤講師 高嶋稔
(小樽商科大学短期大学部教授)

テキスト

- (1) H. Goad, *Language in History* (観見書店)
- (2) A. H. Markwardt & R. Quirk, *Common Language* (研究社)
- (3) E. Sapir, *Selected Writings of Edward Sapir* (南雲堂)

上記テキストの(1)と(2)は速読用に(3)は精読用に選んだもので、いずれも「言語」を内容としている。履習者は「言語」に関心をもっていることが望ましい。

このE 312のクラスでは「大学での英語は学生自身が学習するのであって教師から習うのではない」という考え方を採る。従って、学生が教室に出席する前に、必ずテキストを精読し、英文の理解や内容についての疑問点と問題点をまとめてクラスに提出して、出席者全員で討論しながらその解答を得ることになる。

時間が限られているので、教室では英語を日本語におきかえる、いわゆる逐語訳はしない。学生の自主的、積極的な勉強を前提としてクラスでの学習をすすめる。テキストの内容その他については、最初の時間に詳細に話すので、履修希望者は必ず出席されたい。

○E 313 (前期) 非常勤講師 浪田克之介
(北海道大学助教授)

(後期) 非常勤講師 北市陽一
(北海道大学教授)

C. P. Snow: *Variety of Men* (英宝社)

上記テキストの講読。

(なお、北市講師が担当する後期については、改めて指示がある予定。)

非常勤講師 小林 謙
(北海道武蔵女子短期大学教授)

John Steinbeck: *America and Americans* (英光社) 900

The Grapes of Wrath (『怒りのぶどう』), *East of Eden* (『エテの東』)などの名作で知られるSteinbeckが愛する祖国によせる、このエッセイ中で、アメリカの歴史・風土とからみあったアメリカ人の姿があらゆる角度からき出されている。このエッセイにつき、ニューヨーク・タイムズのブック・レビューは次のように評している。「筆者はアメリカとアメリカ人の基本性と矛盾をうまくつかまえている。彼は明晰に、祖国と国民への愛から書いているが、アメリカについて書いた過去の作品に比べ、センチメンタル性が少ない。これは正直で、まさに、力強い作品である。」

演習科目であるので、①出席を重要視する。②日常の授業時の平常点と、隔月うテキストおよび期末テストにより評点・評価する。

ドイツ語 I・II

ドイツ語の授業は下記のクラス編成により行なわれる。

	ドイツ語 I		ドイツ語 II	
火	I A	ブレッシュ	II A	ブレッシュ
	I B	中 川	II B	中 川
	I C	大 塚	II C	大 塚
	I D	石 川	II D	石 川
木	I E	大 塚	II E	大 塚
	I F	筑 和	II F	筑 和
	I G	加 納	II G	加 納
	I H	高 橋	II H	高 橋

1. クラス説明

- (1) I A・II Aは、ドイツ人講師による会話主導の授業。
- (2) I B・C・Dは講読、I E・F・G・Hは文法である。
- (3) ドイツ語 IIは、II A以外すべて講読である。

2. 履修方法

- (1) ドイツ語 I・IIともに、火曜日と木曜日の授業から必ず一科目ずつ履修すること。

- (2) I A・II Aとも履修者数を教室の都合上40名迄とする。
なお、II A・I A(再履修者)とも、前年度のブレッシュ講師による授業の履修を前提としない。
- (3) ドイツ語 I・IIともAクラス以外は名簿により下記の要領でクラス分けを行なう。

火曜日	Aクラス	希望者	
	Bクラス	学生番号	1~130番
	Cクラス	学生番号	131~260番
	Dクラス	学生番号	261~最終番
木曜日	Eクラス	学生番号	1~100番
	Fクラス	学生番号	101~200番
	Gクラス	学生番号	201~300番
	Hクラス	学生番号	301~最終番

なお、このクラス分けは全学年に共通である。

3. 注意事項

- (1) 各クラスとも授業出席を重視する。各学期 $\frac{1}{3}$ 以上欠席した者には、原則として各試験の受験資格を与えない。
- (2) ドイツ語 Iのオリエンテーションを4月22日(木)に行なうので、ドイツ語 I履修希望者は必ず出席すること。なお、ドイツ語 IIのオリエンテーションは今年度は行なわない。
- (3) 辞書・参考書の紹介は、オリエンテーションで行う。

ドイツ語 I

I A 外国人講師 ライナー・ブレッシュ
(北海道大学外国人教師)

下記の語学フィルムを用いて授業を行なう。

ゲーテ・インスティトゥート編 *Guten Tag*.

授業内容は、毎回フィルムを見ることから始まり、会話テキストの口頭練習、文法事項の説明、テープによる反復練習を経て、最後にフィルムの内容を(自分の言葉で)叙述することで終わる。

この授業の主眼は、目と耳と口を用いた徹底的な練習によってドイツ語の文章のパターンが自然に身に付くようにすることにあるので、出席を重視し各学期3回以

上欠席した者には単位を認めない。また定期試験期間中には試験を実施せず、平常授業で各学期2回ないし3回行なう。

なお、最初の授業の際にこのクラスのオリエンテーションを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。

テキスト：小塩節編「現代のドイツ語会話 —グーテン・ターク」三修社 980

I B

教授 中川 勇 治

教科書：「塩谷初級ドイツ文法読本」(郁文堂 1,000)

I C

講師 大塚 讓

教科書：「川井さんのドイツ体験」(小島基著 第三書房 1,000)

I D

非常勤講師 石川 裕 美
(北海道大学講師)

テキスト：新しいドイツ語 I A (新版) 朝日出版社 1,100

テキストの文はすべて暗誦することを前提とし、授業では口頭練習を行う。ラではかなりの量の応用練習を行う。予習、復習ともに毎回二時間以上必要。積極授業参加が要求されるので、欠席、遅刻は原則として認めない。

I E

講師 大塚 讓

教科書：「ドイツ基本文法」(福田幸夫著 第三書房 1,000)

I F

非常勤講師 筑 和 正 格
(北海道大学助教授)

教科書：「最新・緑のドイツ文法」 朝日出版社

十分に予・復習をした上で授業に出席すること。授業についての詳細は、第一購入し、Episode 10 までを自習して授業に臨めば十分参加可能であろう。目の授業中に説明する。

I G

非常勤講師 加 納 邦 光
(北海道大学助教授)

ドイツ語の文法は最初が大切です。出席を毎回とりますので、休まないようにして下さい。本文の説明や練習問題を予習して、授業に参加するようにして下さい。

テキスト：集約ドイツ文法 著者：藤田五郎 出版社：第三書房 定価：880

I H

非常勤講師 高 橋 吉 文
(北海道大学講師)

小塩節：新しいドイツ文法(改訂版) 三修社 980

ドイツ語の初等文法の説明、ドリルを、1回に1課のペースでおこなっていきます。要点を簡明にまとめたテキストをもとに、基本的な変化形は暗記させ、毎回復習させていきますし、必ず全員があたるようにしていきます。しっかり予習して、なるべく休まぬようにして下さい。

ドイツ語 II

II A

外国人講師 ライナー・ブレッシュ
(北海道大学外国人教師)

今年度は昨年度に引き続き下記語学フィルムを用いて授業を行なう。

ゲーテ・インスティトゥート編 Guten Tag. (Episode 11 から)

なお、教科書終了後はプリントを使用する。

授業内容は、毎回フィルムを見ることから始まり、会話テキストの口頭練習、文法事項の説明、テープによる反復練習を経て、最後にフィルムの内容を(自分の言葉)で叙述することによって終わる。

この授業の主眼は、目と耳と口を用いた徹底的な練習によってドイツ語の文章のパターンが自然に身に付くようにすることにあるので、出席を重視し各学期3回以上欠席した者には単位を認めない。また定期試験期間中には試験を実施せず、平常授業で各学期2回ないし3回行なう。

なお、最初の授業の際にこのクラスのオリエンテーションを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。また、昨年度履修していない者でも、早目にテキストを

テキスト：小塩節編「現代のドイツ語会話 —グーテン・ターク」 三修社 950

II B

教授 中川 勇 治

教科書：「消点」(P. ヴァイス著 小栗・中村編 東洋出版 750)

II C

講師 大塚 讓

教科書：「二つの事件」(マイヤー著 白水社 600)

前年度の教科書のし残した部分をまず片付けます。従って第一回目から平常ど
り授業をします。上記の教科書は文法の復習に主眼を置き、前期で終える予定で

Ⅱ D 非常勤講師 石川裕美
(北海道大学講師)

テキスト：内藤 中級・小文法読本 (同学社) ￥480

Ⅱ E 講師 大塚 譲

教科書：「7人と一匹」(リーマン著 白水社 ￥650)

前年度の教科書のし残した部分をまず片付けます。従って第一回目から平常ど
り授業をします。上記の教科書は文法の復習に主眼を置き、前期で終える予定で

Ⅱ F 非常勤講師 筑和正格
(北海道大学助教授)

教科書：Ⅱ F 「無気味な箱」 平尾浩三編 白水社

十分に予・復習をした上で授業に出席すること。授業についての詳細は、第
一目の授業中に説明する。

Ⅱ G 非常勤講師 加納邦光
(北海道大学助教授)

文法終了直後なので、やさしい読物を読んでドイツ語に慣れてもらおうと思
います。本文の予習と練習問題の予習をして、授業に参加して下さい。出席は毎
とります。

テキスト：練習用ドイツ語読本 編者：上野英雄・菊池悦朗 出版社：第三
定価：1,000円

Ⅱ H 非常勤講師 高橋吉文
(北海道大学講師)

カルステンゼン：オデュッセイア (白水社) ￥800

ドイツ語初級文法終了後でも無理なくはいっていきけるものですし、内容は古
リシャの大詩人ホメロスの血湧き肉躍る冒険と復讐を描くそう快な「オデュッ
ア」ですので、毎回二、三頁のゆっくりしたペースで味わい、かつ文法を復習し
いきたいと思っています。

フランス語 I・II

フランス語の授業は下記のクラス編成によって行なわれる。

	フランス語 I	フランス語 II
火	I A (佐藤講師)	II A (佐藤講師)
	I B (江口助教授)	II B (高橋助教授)
	I C (高橋助教授)	II C (江口助教授)
木	I A (江口助教授)	II A (高橋助教授)
	I B (高橋助教授)	II B (江口助教授)
	I C (デュボワ講師)	II C (デュボワ講師)

注意

- 1) フランス語 II のクラス編成は前年度履修したフランス語 I のクラスに同じ。
- 2) フランス語 I C は会話を中心とした少人数編成のクラスである。このクラスは選択制であるが、授業内容はかなりハードであり、選択に際してはよく考えること。定員は25名前後、希望者の多い場合は抽選を行う場合もある。
- 3) フランス語 I A・B は名簿によりクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- 4) 過年度生については、過去履修したクラスを選択すること。
- 5) 1年次生は、オリエンテーションを行うので必ず参加すること。期日は後日指示する。

フランス語 I

I A (火曜日)

非常勤講師 佐藤卓司
(北海学園大学助教授)

用書：「諺・名言に学ぶフランス語」《文法篇》 本多文彦・渡辺高明著(第三
書房) ￥1,000

話し言葉としての基本表現だけでなく、内容の凝縮された諺・名言の中で比較的
簡明な文体を通じて文法を学んで行く。

I A (木曜日) 助教授 江口 修

用書: 「フランス語の手引き」 伊地智均他著 (行人社) ¥800

I B (火曜日) 助教授 江口 修

用書: 「フランス語の余白に」 蓮実重彦著 (朝日出版社) ¥1,000

I B (木曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「新しいフランス語読本」 窪川英水著 (駿河台出版) ¥680

I C (火曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「ベルナールそして家族と仲間たち」 福井芳男, クリスチャン・ボム
共著 (朝日出版社) ¥1,100

I C (木曜日) 外国人講師 Bruno Dubois
(北海道日仏学院講師)

L. L. : 視聴覚教材を用い簡単な会話・発音練習。教材テキストは ≪ C'est printemps I ≫ で, 教室でプリントを配布する。言語表現は社会的動様式と結びついたものであるから, 学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少なくとも1冊は読むように。

フランス語 II

II A (火曜日) 非常勤講師 佐藤 卓 司
(北海学園大学助教授)

用書: 「フィリップ短篇集」 田島宏編 (白水社) ¥800
「ノディエ短篇集」 重本利一, 前原昌仁共編 (白水社) ¥700

II A (木曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「革命的群衆」 G. Lefebvre 著, 二宮宏之編 (第三書房) ¥700

II B (火曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「文化と人間の状況についての考察」 M. Raymond 著, 井村順一・佐んから注意して下さい。その他詳しいことは開講時に説明します。テキスト: 未定

木明編 (朝日出版社) ¥580

II B (木曜日) 助教授 江口 修

用書: 「カビリアの日々」 M. Feraoun 著, 菊地昌実編 (行人社) ¥700
最初は昨年引き続き, 「新基礎フランス文法」を用いる。

II C (火曜日) 助教授 江口 修

用書: 「中級仏作文」 小林路易著 (白水社) ¥1,600

昨年度のテキスト ≪ Le français et la vie ≫ も併行して用いる。なお, 和仏辞典(コンサイスカスタンダード)を各自購入しておくこと。

II C (木曜日) 外国人講師 Bruno Dubois
(北海道日仏学院講師)

L. L. : ≪ C'est le printemps II ≫ 視聴覚教材を使用しながら, テキスト ≪ Carte sur la table ≫ からのプリントを配布。原語の問題意識の自覚と敏感な感覚を養うため, 学生諸君はフランス語の作用を理解し, 生きた会話による言語表現のより良い展開に努力すること。家庭学習においてはカセットの使用などで発音に慣れるように。

辞書

- 1) 多田道太郎他編「クラウン仏和辞典」(三省堂)
- 2) 鈴木信太郎他編「スタンダード仏和辞典」(大修館)
- 3) 井上源次郎他編「新仏和中辞典」(白水社)

フランス語履修上の注意

- 1) 外国語の学習は教室での練習が重要。したがって授業出席を重視する。
- 2) 定期試験以外にも小試験を行う場合がある。かならず受験すること。

中国語 I 助教授 高田 時 雄

話し言葉の修得に重点を置くこととします。その他の方針と概要については開講時に説明します。テキストは多分プリントで配布します。辞書は当面買わないように。

中国語 II 助教授 高田 時 雄

中国語 I の単位を未取得の学生については, 原則として中国語 II の履修を認めま

用書: 「文化と人間の状況についての考察」 M. Raymond 著, 井村順一・佐んから注意して下さい。その他詳しいことは開講時に説明します。テキスト: 未定

スペイン語 I

講師 山田真史

テキスト：岡田辰雄他 *Español I* (現代スペイン語教本 I) 大学書林

推せん辞書：高橋正武 西和辞典 白水社

テキストはスペイン語の基礎的な文法、会話、読み物からなっています。このテキストで十分に説明されていない文法事項などについては、その都度、適宜プリントのテキストを配布して補足したいと思います。出席を重視します。

スペイン語 II

講師 山田真史

テキスト：E. Ayúcar, *Visión de España*, Centro Hispánico

(イスパニア・センター)

教養あるスペイン人の手によって書かれた文章を講読することを通じて、スペイン語特有の文体に親しむことを目的にします。このテキストはスペインの歴史、文化、地理などについて概説したものです。決して難解なものではありませんが、訳読には相応の努力を必要とします。他にプリント刷りの *Lectura* (読本) も使用したいと思います。授業への貢献度、また出席を重視します。

ロシア語 I

教授 松本忠司

発音、文法、訳読、作文の初歩。

テキスト：新田実著 *ロシア語16課* 白水社

辞書：現在市販のものにはそれぞれ長短があるが、次のうち1点はぜひ用意すること。

八杉貞利編 *岩波ロシア語辞典* 岩波書店

木村彰一編 *博友社ロシア語辞典* 博友社

井桁貞敏編 *コンサイス露和辞典(改訂版)* 三省堂

ほか、ロシア語世界の背景を知るために、次の本をすすめる。歴史、文学誌、ことわざ、文法の簡略辞典としても役立つ。

東郷正延編 *ロシア・ソビエトハンドブック* 三省堂

ロシア語 II

教授 松本忠司

昨年度にひきつづき、「ロシア語16課」を使用し、その最後の部分の学習を通じて、ロシア語の基礎的な表現および文法知識を修得し、その後は文学作品および社会科学関係の論文、新聞論説などの講読に主眼をおく。テキストはプリント刷りになる予定。

3 保健体育科目

体育実技 I・II

教授 杉山 登正
 教授 藤江 正一
 助教授 田野 有
 非常勤講師 中川 平悟
 (小樽商業高校教諭)

I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)うち、いずれかを選択履修することになっている。

体育実技実施種目は必修種目と選択種目とからなり、必修種目として1年目体力診断テスト、トレーニング法の実際、水泳(2年目のみ)、スキー等を行う。2年目では水泳かスキーのいずれか1種目をとらなければならない。

また、選択種目としては下記IIIにあげた6種目中より、1・2年目とも1種目を選択履修し、2年目についてはこの種目を前・後期のいずれかで選択履修するものとする。

II 必修実技種目とその内容

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そら立位体前屈、踏み台昇降

以上の7種目で測定実施時期は、第1回目5月上旬、第2回目が11月上旬である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。月～5月の期間を体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者(体力診断テストの結果、D・E級の者)については、5月以降も継続指導してゆきたい。

(3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは究めて大切なことである。指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施期間等については、おって掲示等により通知する。

水泳実技内容

区分	実技種目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級 A グループ	・立ち方・背浮・立ちとび込み ・伏し浮・簡易泳法	・背浮・伏し浮からの立ち方 ……泳法 ・簡易泳法で10m以上 ……距離泳
中級 B・C グループ	・クロール・平泳 ・背泳・横泳 ・逆とび込み・潜行・ターン	・泳法2種選択……泳法 ・1種目で25～50m……距離泳
上級 D グループ	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・横泳・ターン	・泳法3種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

(4) スキー

室内に閉じこもり勝ちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、1月中旬～2月中旬にかけて4週間(8時間)実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

スキー実技内容

区分	実技種目	テスト種目
初級 A グループ	・歩行・滑走法・方向変換 ・転倒法・登行法・直滑降 ・ブルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン	・ブルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン
中級 B・C グループ	・ブルーク・ボーゲン・横すべり ・斜滑降・シュテム・ターン ・パラレル・ターン	・シュテム・ターン ・パラレル・ターン
上級 D グループ	・パラレル・ターン ・ウェーデルン・発展技術	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

Ⅲ 選択実技種目とその内容

バレーボール, バスケット・ボール, 卓球, ソフトボール(前期), 羽球, ランボリンの6種目である。なお, 人員等の関係で選択種目の変更をさせることもありうる。

Ⅳ 必須実技種目理論

必須実技種目については各々講分の講義をする予定であるが, その内容, 時間に関してはおって通知する。

◆トレーニング基礎理論(1年目……5月予定)

助教授 田野 有 一

・トレーニング

今日では“トレーニング”とか“練習”とかいった言葉は実に曖昧, 無雑作に用いられ, 逆にいえば, それだけ便利な言葉であるといえないこともない。本論でこれらの言葉の意味するものからくりを, 体力づくりの必要性とその要素を分析することからはじめ, 以下, スポーツと科学, トレーニングと科学, 年齢とトレーニング, 競技力と体力, 筋力・持久力のトレーニング, スピード・パワーのトレーニング…等の基礎知識を得ることによって, 「トレーニングの種類とその方法

深らうとするものである。

◆水泳基礎理論(2年目……7月予定)

教授 杉山 登

- 1 水泳の社会的背景
- 2 水泳の基礎的技術要因
- 3 競泳の技術的要因
- 4 基本的泳法
- 5 水泳の安全管理

主>この講義は6月下旬に行なう予定であるが, おって掲示により通知する。

◆スキー基礎理論(1年目……12月予定)

教授 藤江 正

- 1 スキー概説
- 2 スキーの技術的要因
- 3 スキー技術の組み立て
- 4 スキーの操作と身体の使い方
- 5 スキーの安全管理

体育講義 A(前期)・B(後期)

教授 森岡 知 一

大学生の健康に関する今日の問題を概説するとともに, 健康一般についても言及する。とくに, 健康と免疫とのかかわり合いを考えてゆきたい。さらに人間の集団遺伝をとり上げて, つぎの世代への問題点を明らかにしてゆきたい。

加齢(老齢化)の生理的プロセスを学び, 人口問題の生物学的側面にもふれたいと考えている。

4 基礎教育科目

経済学概論 A (前期) 非常勤講師 加藤 睦 洋
(小樽商科大学短期大学部講師)

初歩的な経済理論のうちマクロ理論と呼ばれている部分を講義します。教科書サムエルソンの『経済学』(都留重人訳, 岩波書店)の上巻を使います。講義する章は, 10, 11, 12, 13, 14, 18, 19 の各章です。

経済学概論 A (後期) 教授 藤井 栄 一

Samuelson, *Economics* のミクロ部分を中心に講義します。
教科書: P. A. Samuelson, *Economics* (10th ed.)
(Kogakusha reprint edition)

入門的な教科書ですが分量が多いので時間をかけて自習することが単位修得のための必須の条件です。

経済学概論 B 助教授 鵜沢 秀

この科目は, 学生番号 82193 以降の1年次生と, 選択を希望する2年次生以上の生に対して開かれるものである。

テキストは, Paul A. Samuelson, *Economics* (11版) (好学社のリプリン版がある) または, 都留重人訳『サムエルソン経済学』上, 下巻(岩波書店刊)を使用する。

講義は, テキスト以外の材料を用いることもある。また, 経済学の基礎的知識経済学的思考に十分なじんでもらうために, グラフや式を用いて説明する(高松の数学を理解していれば, ほとんど理解できるから心配する必要はない)。しかし新しい概念を明確に理解し, 使用できるようになるためには, 各自の十分な自習が必要となり, 単位修得のために要求される。テキストをよく読んで欲しい。

講義の主な項目は

1. 経済循環と経済主体
2. 完全競争下の企業行動の理論
3. 完全競争下の家計行動の理論
4. 市場均衡
5. 独占企業の行動

6. 国民所得勘定と政府活動
7. 単純な乗数理論による均衡国民所得決定
8. IS-LM分析による均衡国民所得と均衡利子率の決定

参考文献は, 講義中に指示する。

商学概論 (前期) 教授 久野 光 朗

最初の授業でガイダンスを行ない, 参考書の紹介などもいたしますが, 教養としての会計——会計学を講述したいと思います。講義内容は, おおむね次のようになります。

- I 会計情報の利用者と会計情報
- II 会計情報の提供者と会計情報
- III 会計情報の提供者と経済事象

参考書:

- 青木茂男, 『会計学総論』(中央経済社, 1978)
染谷恭次郎, 『会計学』(中央経済社, 1978)
高田正淳編, 『会計学総論』(有斐閣, 近刊)
神戸大学会計学研究室編, 『会計学辞典』(同文館, 1976)

商学概論 (後期) 教授 山下 隆 弘

社会的制度としての商業組織についてのシステム概念の構築を試行する。そしてその上になって今日的流通問題の幾つかについても考察をする。内容を目次的に示すと次の如くである。

- 商業システムの出発点的諸考察
- (1.1) 商業システムとその複雑性
 - (1.2) 商業システムの史的発展
 - (1.3) わが国の商業システム
- 商業システム論の基礎概念
- (2.1) 商業システムの働きと構造
 - (2.2) 行動要素とその意思決定
 - (2.3) 交換及び取引の理論
- 小売市場システム論
- (3.1) 小売市場システムの特質
 - (3.2) 消費者行動モデル

(3.2) 小売店販売行動体系

IV 卸売市場システム論

(4.1) 卸売市場取引の諸形態と特質

(4.2) チャネル・システム論

V 商業政策論の基礎

(5.1) 商業政策理論の基礎

(5.2) わが国商業政策の展望

参考図書は適時指示する予定であるが、代表的なものとして、鈴木・田村著「商業論」有斐閣がある。

法学概論

(前期) 講師 清水章雄

法の意義、法の強制、法源、法の種類、法の解釈といった法学の基礎的知識を供すると同時に、将来、法律の専門教育科目を学ぶ際に必要な法学の学習方法を講義者が身につけることを講義の目標とする。教科書として、田中英夫編著『実定学入門第3版』（東京大学出版会）を使用するが、この本は、学生が予習をして講義に参加するのでなければ、その意図する教育効果はあがらない。学生の自学的学習が期待される。（第1回の講義の準備として、表紙から13頁まで、および頁から359頁までを読んでおくこと。）

なお、『六法』を講義に毎回必ず持って来ること。

法学概論

(後期) 助教授 道幸哲也

裁判制度や法解釈の一般的あり方等について簡単にふれた後に具体的事案を以てして「法的なものの考え方」について講義する。その際、①紛争の背景・原因、②関連条文の趣旨、③裁判所による判断過程・内容、④当該判決の社会的インパクト等を中心に考察する。

特別のテキストは使用しないが、「小六法」は必携。さらに、講義をよく理解するためには、五十嵐清「法学入門」（一粒社）を読了しておくのが望ましい。

管理科学概論

(前期) 助教授 樋口透久

(後期) 教授 沼田久

この講義の目的の1つは、学生諸君に管理科学についての正しいイメージを身に付けてもらうことである。

[前期]

1. OR (Operations Research) の歴史
2. コンピュータと OR
3. 意思決定過程
4. システム・シミュレーション

[後期]

日程計画、順序問題、経済性分析、動的計画法、ゲームの理論、線形計画法、輸送問題、巡回セールスマン問題、最適停止問題、グラフ理論などの講義を通じて、管理科学の考え方を身につけてもらう。

教科書・参考文献：必要に応じて指示する。

数 学 S21, S22, S23, S31 助教授 白川 寛

クラス編成

1年生(82年度入学生)。

A. S21, S22, S23……数学Ⅲをいまだ履修していない学生

クラス	学 生 番 号
S 21	82001 ~ 82128
S 22	82129 ~ 82256
S 23	82257 ~

B. S31……数学Ⅲをすでに履修した学生

2年生以上は、どのクラスに所属してもよい。

内 容

S21, S22, S23

前期 高校数学Ⅲ 微分, 積分, 確率

教科書：新訂数学Ⅲ 東京書籍 小平邦彦編

後期 偏微分法

教科書：微分学 入江盛一著 培風館新数学シリーズ13

S31

前期 偏微分法

教科書：微分学 入江盛一著 培風館新数学シリーズ13

後期 重複積分法・無限級数

教科書：積分学 入江盛一著 培風館新数学シリーズ 19

やさしい問題を対象に、演習中心で行います。演習提出は、成績評価の対象
します。

5 専門教育科目

統計学

教授 久次智雄

講義内容

I. 記述統計

II. 推測統計

参考書

(1) 森田優三著『新統計概論』(日本評論社)

(2) 森田優三・久次智雄著『演習統計概論』(日本評論社)

(注) 参考書(1)は講義のさいに持参すること。

数理統計学

教授 久次智雄

講義内容

1. 確率変数(補論)

2. 標本統計量の分布

3. 線形代数(補論)

4. 多変量正規分布

5. 回帰分析・分散分析の基礎

6. 推定論・検定論の基礎

7. ベイズ的推論

主要参考書(講義のさいに持参すること)

岩田暁一『経済分析のための統計的方法』(東洋経済新報社)

その他

「統計学」、「数学」および「応用数学(代数)」はすでに履修済みであるとして講義を進める。

経済原論 I

教授 藤井栄一

参考文献

1. スティグラール『価格理論』

2. フリードマン『価格理論』

3. ハーシュライファー『価格理論とその応用』

4. ケインズ『一般理論』

5. ドーンブッシュ、フィッシャー『マクロ経済学』

6. ダービー『中級マクロ経済学』

経済変動論

教授 増井幸夫

インフレ、失業、スタグフレーション、エネルギー問題を克服し、「最大の雇用、生産、購買力」を確保するにはどうすればよいか、政府はなにをなすうるか、景気変動はなぜ起こるか、景気変動は資本主義経済の宿命的病患か、大不況は再来するか、各個別経済主体にとり長期的展望の開けた経済計画が立てられるような安定的マクロ経済的基礎を提供するにはどうすればよいか、を最近のマクロ経済学の研究成果を総動員して系統的に論じる。

講義題目

1. マクロ経済分析の基礎

マクロ経済の諸問題、分かり易い分析法、ケインジアン-マネタリスト論争、マクロ経済変数の測定

2. マクロ経済の長期均衡

所得、物価水準の決定メカニズム、恒常成長モデル

3. マクロ経済ショックに対する動学的調整過程

マクロ経済ショックの諸類型、動学的ケンブリッジ方程式、予想を含む調整動学、名目所得、実質所得、物価水準の循環的調整、利子率の循環的調整、貨幣のショック・アブソーバー機能、アンダーシュューティング、オーバーシュューティング

4. ケインジアン・モデルとマネタリスト・モデル

基礎的諸仮定、消費関数、投資関数、貨幣需要関数、総供給関数、労働市場の機能、期待形成、経済の自己回復力

5. 経済安定政策

インフレ問題の性格、失業率の決定要因、期待インフレとフィリップス曲線のシフト、スタグフレーションのメカニズム、マクロ経済目標、安定化戦略の基礎、財政政策の有効性、貨幣政策の有効性、政策効果論争

テキスト：M. R. ダービー『中級マクロ経済学』マグローヒル好学社

経済原論Ⅱ

非常勤講師 花田 功 一

(小樽商科大学短期大学部講師)

『資本論』の内容を全般的に解説します。

I 経済学の対象と方法

II 資本の生産過程

III 資本の流通過程

IV 資本主義的生産の総過程

参考文献

マルクス『資本論』

『新マルクス経済学講座I』有斐閣

『マルクス<資本論>の研究上下』新日本出版社

『マルクス経済学体系IⅡ』有斐閣

『マルクス経済学講座I』有斐閣

『マルクス主義経済学講座上下』新日本出版社

計量経済学

助教授 遠藤 薫

講義内容

1. 単一方程式モデル

2. 同時方程式モデル

参考書

佐和隆光『数量経済分析の基礎』筑摩書房

その他講義中に指示します。

経済史概論

教授 井上 巽

比較経済史の観点からイギリス・フランス・ドイツおよびアメリカの史実を素材として、経済史の基礎理論を論述します。講義内容は次のような編成となる予定ですが、変更があれば本年度講義時間の冒頭にお知らせします。

I はじめに

II 経済発展段階論

III 封建制論

IV 封建的危機論

V 市民革命論

VI 重商主義論

VII 産業革命論

テキストは使用せず、小生の講義ノートを中心に論述します。参考文献はそのつど指示しますが、当面、松田智雄編『講義西洋経済史』（青林書院新社・本年4月刊予定）をあげておきます。

日本経済史

助教授 長谷川 伸 三

日本資本主義発達史（幕藩体制の解体～国家独占資本主義の確立）

本年は日本近代経済史、すなわち天保改革前後に始まる封建的危機、開国・維新変革と本源的蓄積過程、産業革命と寄生地主制の確立、帝国主義段階への突入と日露戦争、第一次世界大戦と独占資本主義の形成、金融・昭和恐慌と国家独占資本主義の確立までを講義する予定。

前期ではレポート提出、後期ではテストを行なうほか、適宜中間レポートの提出を求める。それぞれの課題を所定の期日までに提出し、合格した者のみを評価するので、出席はもとより自主的な学習ができない者には受講の資格はありえない。

テキスト：後藤靖・佐々木隆爾・藤井松一著『日本資本主義発達史』有斐閣双書、1979年刊。

主要参考文献：野呂栄太郎著『日本資本主義発達史』・山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫。楫西光速他著『日本資本主義の成立』全2冊・『日本資本主義の発展』全3冊、東大出版会。大江志乃夫著『日本の産業革命』・岩波講座『日本歴史』近世4・5、近代1～6、岩波書店。石井寛治著『日本経済史』・安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東大出版会。大町雅美・長谷川伸三編著『幕末の農民一揆』雄山閣。長谷川伸三著『近世農村構造の史的分析』柏書房。

経済政策

助教授 小 平 又 裕

(1) 講義の概要

- ① 市場機構の働きと政府介入のもたらす諸問題。
- ② 市場の失敗：外部性、独占、収穫逓増産業、動学的不均衡。
- ③ 公共財の理論。
- ④ 費用＝便益分析：直接効果と間接効果、割引率、リスクの取扱い。

(2) ヘンダーソン、クオント共著『現代経済学 — 価格分析の理論 —』（創文社）をテキストとして使用する。各自、準備のこと。

(3) 参考文献、講義の進め方、単位認定方法については、四月第1週の講義の際、指示するので、聴きおとしのないよう。

工業経済学

教授 吉 武 清 彦

I. 産業構造の意義

II. 技術進歩

III. 独占と競争

IV. 独占対策

V. 二重構造論

VI. エネルギー経済の展望

VII. 日本の公企業の分類と歴史

VIII. 社会資本論

IX. 日本公企業の財政

文 献

篠原三代平『産業構造論』（筑摩書房、第2版、経済学全集18）

宮沢・新野・斎藤『現代日本経済論』（有斐閣選書）

両角良彦『競争と独占の話』（日経文庫）

森谷正規『技術強国・日本の挑戦』（PHP研究所）

吉武清彦『英文日本の公企業』（日本評論社）

江見康一・塩野谷祐一『日本経済論』（有斐閣双書）

注 講義の内容及び順序について若干の変更が生ずることがある。

社会政策

教授 吉 武 清 彦

第I篇 社会政策史

第II篇 社会政策と労働経済学

第III篇 社会政策各論

文 献

大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣

隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）

隅谷三喜男『労働経済論』（日本評論社）

白井泰四郎『企業別組合』（中央公論社）

財政学

教授 早 見 弘

昭和57年度は次の順序で講義する予定である。

序 章 財政と財政学の系譜

第1章 日本財政の長期分析

1 日本における政府の役割と財政

2 財政規模の長期趨勢

3 政府活動と経費構成

第2章 予算政策の目標

第3章 公共財の理論と集合的選択

1 公共財の純粹理論

2 集合的選択の理論

第4章 租税の規範理論

1 租税論の課題

2 利益説

3 能力説

第5章 租税の実証理論

1 課税の中立性

2 租税の転嫁と帰着

第6章 経済安定と財政政策

参考書：早見 弘著『財政学』（同文館出版，1980年）

その他講義中に指示する文献

国際経済論

助教授 佐竹正夫

国際経済論は、国際的な経済関係 — それは国際貿易や資本や労働の国際間の移動、そしてそれらの背後にある金融的な取引から構成される — を対象とする学問である。講義では、それらの中でも特に国際貿易に焦点を合わせる。詳しい内容と参考文献は講義の初めに指示するが、概要は次の通りである。

1. 貿易利益
2. 貿易構造と実証研究
3. 貿易と所得分配
4. 貿易政策の理論
5. 保護貿易主義

国際経済論は、言うまでもなく、財政学や金融論と同じように応用経済学であり、その理解には経済学の初歩的な知識が不可欠である。特に国際貿易論の場合には、価格理論の考え方に慣れていることが望ましい。

貿易政策

教授 麻田四郎

戦後の世界経済体制（ブレトン・ウッズ体制）は発足後35年を経過して、現在大きな転換期に直面している。講義ではこの35年を回顧し、そのなかからわが国の国際経済政策への指針を探したい。

(1) 前史：両大戦間の世界経済

(2) IMF体制の展開

(3) GATT体制の展開

(4) 南北問題の展開

昨年度は(1)、(2)を取り上げるに止まったが、本年度は(2)~(4)に力点を置きたい。「国際経済論」を必ず履修しておくこと。参考書は講義のなかで随時指摘する。

国際金融論

教授 足立 禎

1. 新IMF体制と国際通貨制度
2. 外国為替の基礎理論
3. 先物為替の理論と実際
4. 持高の理論と為替操作
5. 中央銀行の為替政策と市場介入
6. 金問題とSDRの将来
7. 国際金融市場の新動向

重要参考文献

足立 禎著「外国為替の話」東洋経済新報社（昭57. 3月出版）

E. ゴーメン「屈伸為替相場制度」足立禎訳 勁草書房

足立 禎著「外国為替市場」日経新書 No. 188

金融経済論

助教授 今 喜典

金融の基本的役割は購買力を時間的に配分することにある。この目的のため、さまざまな方法が考案されているが、その結果現代の金融組織・制度は非常に複雑なものとなっている。

この講義では、わが国の具体的な金融組織・制度の特徴を考慮しながらも、金融現象の基礎について論理的な理解をふかめることを主な目的とする。

講義は前半で家計、企業および金融仲介機関などの金融行動についてミクロ経済学的分析をおこない、後半では集計的モデルによるマクロ的分析をおこなう予定である。

流通組織論

非常勤講師 片桐誠士

（小樽商科大学短期大学部教授）

商品流通の歴史的な流れを体系的にあとづけたうえで、資本制商品流通の特質を

明らかにし、とくに現代商品流通組織について詳細な論述を行なうものとする。

1. 交換・商品流通の歴史的展開
2. 資本制商品流通の特質
3. 現代の流通組織

参考文献

森下二次也著「現代商業経済論」(有斐閣)

鈴木 武著「商業と市場の基礎理論」(ミネルヴァ書房)

マーケティング

教授 山下 隆 弘

マネジャー・マーケティングについてのシステム接近による理論展開をする。そして、それは、単に概念的レベルを超えて、実証的検証可能という意味においてオペレショナルティを備えたものである。尚、今年度は下記使用テキストの範囲を超えて、「販売員活動」の問題を考察する心算である。テキストの目次は次の如くである。

序 問題意識と概括

一章 伝統的理論の概括とその問題

二章 オールダーソン理論を志向するシステム論

三章 基礎概念とシステムの概念的的理解

四章 マーケティングシステムの予備的描写

五章 消費者行動モデル

六章 小売店行動モデル

七章 中間業者モデル及び販売員行動モデル

八章 生産者意思決定とマーケティング情報システム

テキスト：山下隆弘著「マーケティング経営システム論」白桃書房

商品学

教授 齋 藤 要

本年度は総論として、商品の市場的価値と社会的価値を品質・機能要因を中心とし、それを価格要因、広告などを含む流通要因、さらには外部不経済要因と関連づけて追求する。特に消費者の欲望に対応する品質の形成、構造、評価、発展法則や、それらの製品計画への応用、さらには欠陥商品に対する消費者保護政策のあり方などについて述べてみたいと思う。

なお、重要個別商品の自然科学的、経済学的特性については、総論と関連づけて説明する予定である。

テキストは使用しないが、必要に応じて要綱を印刷したプリントを配布し、さらにおりをもて商品テストを行う。

国際マーケティング(後期) 助教授 森 田 憲

国際経済社会におけるさまざまな(市場あるいは当局の介入による)調整機構の性質について考える。

とくに国際収支をめぐる調整機構および直接投資の機能に焦点をあてることにする。

参考文献は講義の中で適宜指示する。

商業英語

非常勤講師 北 村 正 司

(小樽女子短期大学学長)

外国貿易の流れを体系的に展開し、貿易実務と英語商業通信文を統一的に記述し、実務に関する基礎的な知識の習得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 電報とテレックス

また商業英語の活用に必要な英文法の知識と感覚を養いたい。

テキスト 島谷剛三著「国際貿易英語」(成美堂) 1,500円

保 險 論

非常勤講師 広 海 孝 一

(一橋大学教授)

1. 保険制度
 - (1) 制度としての保険
 - (2) 保険の分類
2. 保険産業
 - (1) 保険産業の輪郭
 - (2) 保険産業の特色
 - (3) 保険産業の沿革
 - (4) 保険企業の活動
 - (5) 保険市場の構造

(6) 保険産業の市場成果と課題

<参考文献>

広海考一『保険業界』 教育社 1979年

証券市場論(前期)

教授 石原定和

序章 有価証券とは何か

証券の種類・証券発生の基盤・現代資本主義と有価証券

第1章 株式会社一資本集中と支配強化

企業形態の発展(合名・合資・株式会社)

株式会社の意志決定(単純多数決→持株多数決)

支配株主と従属株主とへの分裂(無限責任→有限責任)

支配技術の発展(委任状・無議決権株株式・持株会社)

株式民主化(個人株主増加運動)の意義

第2章 信用制度と株式会社

信用制度の発展(商業信用→銀行信用→中央銀行)

信用制度と株式会社の交流(資本信用と銀行)

擬制資本範疇の成立と創業者利得

第3章 株式の流通一元本回収の方法としての信用代位

株式の流通を容易にする制度的技術(有価証券化・取引所)

株式価格の形成(擬制資本の諸形態)

第4章 現代資本主義段階での信用制度の役割の変化

国債の発行・金融資産の累積・自己金融・株式市場の機関化

<参考文献>

川合一郎編著『現代信用論』上・下, 有斐閣ブックス

小野二郎編著『証券価格論』同文館

拙著『戦後証券市場の構造分析』千倉書房

中島将隆『日本の国債管理政策』東洋経済新報社

証券金融論

教授 鈴木満直

国際金融と国内金融の接点を明確にしたあと, わが国のマネー・フロー表にもとづき, わが国を中心として, 国内金融市場を構成する貨幣市場および証券市場の役割および位置づけを解説し, 最後に, 証券市場を機能の視点から分析する。

テキスト: 拙著『ポートフォリオ理論と資本市場の機能』勁草書房

経営学原理(前期)

非常勤講師 眞野 脩

(北海道大学教授)

第I章 経営学の生成

第1節 商業学から経営学へ

第2節 経営学の諸系譜

1. 人間像の変遷

2. ドイツ経営学説

3. アメリカ経営学説

4. 日本経営学説

第II章 企業目的論の展開

第1節 伝統的企業目的論の展開

第2節 近代的企業目的論の展開

第III章 企業構造論の展開

第1節 伝達体系の確立

第2節 伝達体系の過程

第3節 目的の設定

第IV章 管理過程論の展開

第1節 意思決定と信頼感

第2節 管理者と組織の行為準則

第3節 若干の試み

参考文献 眞野 脩「組織経済の解明」文真堂

企業形態論

助教授 小田 福男

議義内容

序, 企業形態論の概観

1. 個人企業, 合名会社, 合資会社

2. 株式会社

3. 企業結合諸形態, 多国籍企業

4. 資本主義公企業, 協同組合企業

5. 社会主義企業

なお, 特に株式会社および社会主義企業について重点的に講義する予定です。

テキスト: 大島国雄著『企業形態論』, 同文館, 1976年

拙著『ソビエト独立採算制理論の展開』, 千倉書房, 近刊

参考文献: その都度指示します。

経営管理論(後期)

助教授 鷓野好文

アメリカ経営学の生成過程を, 可能なかぎり詳細に検討していきたい。なお, 講義の内容は以下のとおりである。

I INTRODUCTION

A. Outline and Aims

B. Required and Suggested Readings

II THEORIES OF ORGANIZATIONS

A. Trends in the Studies of Organizations

1. Scientific Management: F. Taylor

2. Human Relations Studies:

a. E. Mayo et al.

b. K. Lewin

c. R. Likert

B. Weber's Theory of Organizations

1. The Ideal-type

2. Power and Authority

C. Case Studies of Bureaucracy

1. Functions and Dysfunctions of Bureaucracy:

R.K. Merton

2. Rules and Types of Bureaucracies: A. Gouldner

D. Neo-Weberian of Organizations

1. Information Processing Model: H. A. Simon

III THE COMPARATIVE STUDIES OF ORGANIZATIONS

A. Comparative Studies of Bureaucracies

1. Quantitative Studies as Multi-variate Analysis

2. A Return to Weber: Aston Study

B. Structural Differentiation and Environment

1. Organization and Technology: J. Woodward

2. Organization and Market: Lawrence & Lorsch, and

A. Chandler

IV FIRM THEORIES

A. Firm Growth and Corporate Strategy

1. The Roles and Position of Corporate Strategy in Firm

2. Firm Growth and Corporate Strategy

3. Managerial Resources and Corporate Strategy

4. Diversification

参考文献は, 必要に応じその都度指示する。

また, その他の事柄に関しても第一週目に細かく指示する。

労務管理論

助教授 林伸二

労務管理論上の諸問題を最新の理論に基づいて説明・解明していきたい。同時に下記のテキストを批判・検討しつつ新しい労務管理論のあり方も探してみたい。

テキスト: W. L. French, The Personnel Management Process. 4th ed, Houghton Mifflin co. 1978

参考文献: 問題の性質によって異なるが, 著書・雑誌論文を多用する。

たとえば

Kanter, M. R. & B. A. Stein(ed.), Life in Organizations, Basic Books, Inc, 1979. 1979.

Schuler, R. S., A Role and Expectancy Perception Model of Participation in Decision Making, Academy of Management Journal, 1980. Vol.23, No.2, 331-340

Katy, D. & R. L. Kahn, The Social Psychology of Organizations 2nd, ed., Wiley 1978.

Peterson, R. B., Tracy, L. & A. Cabelly (ed.), Readings in Systematic Management of Human Resources, Addison-Wesley 1979.

Nkomo, S. M., Stage Three in Personnel Administration: Strategic Human Resources Management, Personnel, July-August (1980), 69-77.

産業心理学

教授 和田完

産業心理学の特質の成立過程を学説史的に概観し, きわめて多岐にわたる関連領域を整理し説明する。次に産業心理学の今日的テーマの一つとして, 産業精神衛生

に焦点をしぼって講述する。

テキスト：春原千秋他編「職場の精神衛生」医学書院

経営史 助教授 辻原 悟

今年度は西洋経営史について講義する予定です。また日本の経営との比較もとりいれたいと思っております。

学生諸君には、時に応じていろいろな課題を提出してもらい予定ですのであらかじめ心得ておいて下さい。

テキストはさしあたり、米川伸一・小林袈裟治編『西洋経営史を学ぶ（上下）』有斐閣、昭和57年。

参考書としては、吉原英樹・佐久間昭光・伊円敬之・加護野忠男『日本企業の多角化戦略』日本経済新聞社、昭和56年。

簿記学 A 助教授 山本 真樹夫

簿記とは、常識的には、たんに記帳技術であるといえるかもしれない。しかし今日の企業は複雑な財務機構を有し、そこでは多種多様な取引が行われる。したがって常識的な記帳によって企業の記録、計算を満足させることは到底できない。このため複式簿記が要請されるのである。

複式簿記は、理論にもとづき取引を認識し、記録し、計算すると同時に、企業の多種多様な財務記録を有機的に統合する。さらには、決算により帳簿記録を総括し、貸借対照表、損益計算書などのもっとも基本的な企業情報を作成し、伝達する。そのため、複式簿記は理論に裏付けされていると同時に特定の技術によって成立せしめられている。

本講義では、かかる複式簿記の理論と技術を学んでゆく。ただし複式簿記は技術的性格を強く有するものであるから、複式簿記を学ぶうえで技術の体得が不可欠である。技術の体得は訓練以外にない。したがって使用教科書の別冊である記帳練習帳による記帳訓練を行ってもらい、その成果を提出してもらい予定である。

〔使用教科書〕

沼田嘉穂著『簿記教科書 — 十訂版 — 』（同文館 1978）

同書別冊『記帳練習帳』（同文館 1978）

〔参考書〕

片野一郎著『簿記精説（上）（下）』（同文館 1977）

安平昭二著『簿記要論』（同文館 1978）

簿記学 B

講師 松本 康一郎

(1) 講義内容

授業は、簿記の基本を習得し、あわせて、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的としてすすめます。講義内容は、概略次のとおりです。

1. 複式簿記機構の基本原則
2. 企業複式簿記の記帳手続
3. 株式会社企業簿記の基礎
4. 帳簿組織の基本
5. 本支店会計入門

(2) テキスト

沼田嘉穂『簿記教科書（新版）』（同文館、昭和55年）および『簿記教科書記帳練習帳』。

(3) 参考書

片野一郎『簿記精説（上・下）』（同文館）、沼田嘉穂『完全簿記教程（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）』（中央経済社）、安平昭二『簿記要論』（同文館）および『初・中級簿記問題演習』（中央経済社）。

(4) 注意

会計関係諸科目の履修には、その前提として、「簿記」の知識を有していることが必要です。

簿記演習

非常勤講師 渡辺 和夫

（小樽商科大学短期大学部助教授）

本科目は、複式簿記の基礎理論を理解している者、すなわち「簿記学」を履修済の者を対象にしている。「簿記学」では扱えなかった特殊販売や株式会社の記帳問題など、より複雑で高度な内容が講義される。「簿記学」で使用した『簿記教科書』（沼田嘉穂著）との連絡を密にするため、同書を参照する機会が多くなると思われる。したがって、講義にはテキストとともに『簿記教科書』も持参するようになっている。

なお試験は、まとめてやるよりも分散してやる方が効果があるので、2・3章終えるごとに実施したいと考えている。

テキスト：

安平昭二著「簿記詳論」同文館

主な内容：

- I. 勘定科目別・取引別勘定処理
- II. 株式会社企業簿記
- III. 帳簿組織および特殊問題

会計学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行ない、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収益, 費用, 資産, 負債, 資本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト：

太田・飯野, 『会計学』(千倉書房, 1976)

参考書 — 現在入手可能な標準的参考書：

黒沢 清, 『近代会計学』(春秋社)

山下勝治, 『会計学一般理論』(千倉書房)

飯野利夫, 『財務会計論』(同文館)

青柳文司, 『会計学の原理』(中央経済社)

黒沢 清(主編), 『近代会計学大系』(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編, 『会計学辞典』(同文館)

管理会計(前期)

助教授 中 善 宏

管理会計は、企業内部の各階層に位置する経営管理者がその職能を円滑に遂行するために必要とする計量的情報を提供する会計です。経営管理者の職能は要するに経営活動の計画と統制を行なうことですが、管理会計においてはそれぞれの内容は様々な観点から解釈されます。計画については、たとえば、基本計画と業務計画に区分されます。基本計画というのは製品計画、経営立地の選択および設備投資計画などの経営の基礎構造に影響をおよぼす意志決定をいい、業務計画とは短期の企業の各業務分野の諸活動を調整して企業全体として相互に矛盾のない一連の計画をた

てる過程をいいます。短期利益計画と予算編成がこれに該当します。さらに計画は個別計画と期間計画とに区分されることがあります。この場合の個別計画とは経営管理者の当面する個々の問題について利用可能な代替的解決策の中から1つを選択する過程をいいます。その一部は上述の基本計画に該当します。期間計画とは一定の期間を対象として企業の全般的な総合的計画をいいます。先の業務計画はこの期間計画に対応しますが、さらに個別計画のうち製品の組み合わせ決定、部品の自製か外注かの決定のようなその決定の効果のおよぶ期間が予算期間内に限定される個別計画が含まれる点で広い概念です。業務計画は最終的には個人に対する予算あるいは標準原価の形をとります。統制は、計画の実施を確保するために予算を個人の目標として受容させ、その達成へ向って動機づけそして予算と実績とを比較して業績を評価する過程です。このことは業務計画と統制とは直接的な関連をもっていることを示唆しています。これに対して基本計画はそうではありません。さらに両計画は、会計実体、使用される会計概念を異にしています。

管理会計は、これらの計画と統制に役立つ情報の提供を目的としていますが、そのさい大きな役割を果すのが原価計算システムです。原価計算システムには直接原価計算と全部原価計算があります。直接原価計算では製品その他の原価対象に対して直接費のみを賦課します。直接費とは生産量の変化に対応して変化する原価をいい変動費に一致します。直接原価計算では固定製造原価は発生した期間の原価とされます。これに対して全部原価計算では固定製造原価をも製品に負担させます。

財務会計で必要とされる棚卸資産評価は全部原価に基づいています。従って直接原価計算は、財務会計との関連では一般に認められた会計実務ではありません。しかしそれは、管理会計目的には極めて有効な原価計算システムです。特に業務計画・統制で必要とされる差額原価および統制可能費の算定を効率的に行ないます。そのために実務においても広く採用されるようになってきた原価計算システムです。

本年度の講義は、直接原価計算をとり上げこれと業務計画および統制との関連を講義します。講義内容はおよそ次のようになります。

I. 序論

1. 管理会計について
2. 直接原価計算と全部原価計算

II. 直接原価計算

3. 原価概念と原価分析
4. 直接製品原価
5. 原価管理

6. CVP分析
7. 貢献利益分析
8. 価格設定
9. 管理会計と人間の行動
10. 直接原価計算システムの導入

使用テキスト：溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社 昭和54年

原価計算(後期)

講師 福島吉春

1. テキスト

松本雅男『原価計算』(国元書房, 1971) — 同書の出版年次はいささか古い。ユニークな主張が随処に見られる好著である。ただし講義内容が同書の立論と異なることはいうまでもない。

2. 講義内容

- (1) 原価計算の基礎的諸概念
- (2) 実際原価計算 — 費目的計算・部門別計算・製品別計算
- (3) 標準原価計算
- (4) 直接原価計算
- (5) 営業費計算

授業は計算技術だけでなく、その基盤となっている管理思考や歴史的発展過程、記帳方法(工業簿記)も理解してもらおう。なお今年度は「管理会計」が開講されるので、直接原価計算については簡単に触れるにとどめる予定である。また、授業の最初の時間に、講義内容および下記参考文献についての解説を行なう。

3. 参考文献

- (1) テキストを理解するための基礎的文献 — ①『原価計算の学び方・考え方(会計人コース別冊)』(中央経済社), ②原価研究会編『原価計算テキスト』(同文館)。
- (2) 理解を深めるための文献 — ①岡本清『原価計算(三訂版)』(国元書房), ②溝口一雄『最新例解原価計算』(中央経済社), また問題集としては③飯野染谷編『明解簿記(1級工業簿記・原価計算)』(国元書房)。

財産法 I

教授 神田孝夫

民法典は5編から成り、そのうち第1編総則、第2編物権、第3編債権を財産法とよび第4編、第5編を家族法とよぶのが通例である。本講義では、財産法の前半

の第1編と第2編が主要な対象となる。民法典は、私法の基礎法であり、講学上も、法律学一般に妥当する数多くの基本的な概念が登場する。その意味で、他の法分野を勉強する前提としても、これを十分に勉強することが必要である。対象領域が広大であるため講義内容が重要論点主義にならざるをえず、比較的理解の容易な部分は学生諸君の自習にゆだねることになると思う。当然のことながら、私としては講義に最大限の努力をふりむけるつもりである。学生諸君もぜひ真剣にとりくんでもらいたい。

教科書・参考書はおって通知する。

六法全書は必携(どの出版社のものでもよい。ただし、試験の際には、判例や解説の付いている六法の持込みは許されないから、予め、この点を了解のうえ購入されるとよい。自習もしくは講義の受講用のためならばこのような六法をもつことはむしろ好ましいのだが。念のため。)

財産法 II

非常勤講師 松久三四彦

(小樽商科大学短期大学部講師)

最新の判例を参照し、外国法の理論をも紹介しつつ、資本主義経済機構の根幹をなす債権理論を展開していきたい。内容は、債権の目的・効力・消滅・多数当事者の債権関係・債権譲渡と債務引受を扱う債権総論と13の典型契約を主体とする債権各論から成る。その広範な領域・豊富な内容に比し、講義時間の不足はおおいがたく、説明不足な個所もないとはいえない。それらの点については、各自、指示する文献(判例評釈・論文等)を手がかりに研究されたい。

テキスト：我妻栄・有泉享著 民法2・債権法(一粒社)

参考書：我妻栄著 債権総論(民法講義IV)(岩波書店)

民法5)・(6) …… 有斐閣双書

民法判例百選II(新版, 六月出版予定・有斐閣)

民事訴訟法

講師 中島弘雅

この講義は、広義の民事訴訟法の概説を目的とし、その内容は次の3部から成る。

- ① 訴えの提起に始まり判決の確定をもって終る、いわゆる判決手続(狭義の民事訴訟)の概観〜民事訴訟法の概説
- ② 民事執行手続(強制執行、担保権の実行としての競売、保全処分)の概観〜民事執行法の概説
- ③ 倒産処理手続の概観〜破産法、会社更生法等の概説

前期に①を、後期に②と③を行う。

なお、前期のテキストとしては、小室直人編著『民事訴訟法講義』（法律文化社刊）を予定している。後期のテキストは未定。追って連絡する。

会社法

非常勤講師 出口正義
(小樽商科大学短期大学部助教授)

わが国の企業のほとんどは共同企業の典型的形態である社会組織をもって経営されており、現代の資本主義経済は会社とりわけ株式会社制度とはなれては考えられないといつてよい。会社法は、このような会社組織の成立から消滅に至る諸段階における利害関係人の利害調整を行うことを主たる目的としている。講義は、かかる目的を把握したうえで、会社法が現実の企業活動においてどのように機能しているかを知ってもらうために、できるかぎり判例などの具体的素材を提起しながら進めることにする。なお、昭和56年6月に改正商法が成立し、昭和57年10月1日から施行されることになっている。今回の改正は全面改正・根本改正とも言われており、現行法の全面的見直しの上に立って根本的改善を図っている。したがって、講義ではむしろ改正商法を中心に行うことになる。

教科書：現在、改正商法の成立にともなって教科書等の全面改訂が行われているため、それらの刊行がなされるのをまって指示する。

参考書：竹内昭夫『改正会社法解説』有斐閣

ジュリスト別冊『会社判例百選(第三版)』有斐閣

商取引法

助教授 青竹正一

はじめに商法の序論的説明をしたのち、商法総則、ついで商行為法を講義します。商法を学ぶ必要性を知ってもらうため、できるだけ判例などの具体事例に即して進めることにします。

教科書：上柳・北沢・鴻・竹内編『商法総則・商行為法』有斐閣

ジュリスト別冊『商法(総則・商行為)判例百選』有斐閣

有価証券法

助教授 石原全

有価証券には種々の態様のものがありますが、本年度は有価証券に関する法理論が集大成されている手形法小切手法につき(特に、約束手形を中心として)講述します。教科書は使用しませんが、若干の参考文献をあげておきます。

大隅・改訂手形法小切手法講義(有斐閣)

河本・約束手形法入門(有斐閣)

鈴木・手形法・小切手法(有斐閣)

高鳥・手形法小切手法(慶応通信)

手形小切手判例百選(第三版)(別冊ジュリスト No.72)

憲法

助教授 結城洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I. 序論 — 憲法とは何か。

II. 日本の憲法

(1) 明治憲法の特徴

(2) 国民主権と象徴天皇制

(3) 平和主義

(4) 基本的人権

(5) 「日本国憲法」第四章以下の主要問題

テキスト：清水 睦他『憲法講義1』, 大須賀明他『憲法講義2』有斐閣

参考書：『憲法判例百選I・II』(別冊ジュリスト)有斐閣

『憲法の争点』(ジュリスト増刊)有斐閣

以上は六法とともに必携のこと。

その他：阿部照哉他『基本的人権の歴史』(有斐閣新書)

芦部信喜編『憲法II・III』(有斐閣大学双書)

行政法 I

助教授 秋山義昭

裁判例を素材に、行政法の全体を体系的に講義する。行政法は、憲法・民法等の知識を不可欠とするので、受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履修済みであることを要する。

テキスト：秋山ほか「教材行政法判例」(北大図書刊行会)

参考書：今村成和「行政法入門(新版)」(有斐閣双書)

田中二郎「新版行政法(全訂第二版)上・中・下」(弘文堂)

成田ほか「現代行政法」(有斐閣双書)

原田ほか「行政法入門」(有斐閣新書)

室井ほか「行政法を学ぶ1・2」(有斐閣選書)

なお、講義の最初の時間に、講義内容を紹介したプリントを配布する。

経 済 法

助教授 和田 健 夫

独占禁止法を中心に次の順序で講義をすすめる。

まず最初に経済法の呼び名のもとにまとめられる法現象がなぜ起こったのか、1つの法分野としてのその独自性はどこにあるのかについて述べ(「経済法総論」)、次いで経済法の中心となる独占禁止法を、その目的(「独占禁止法総論」)、さらに具体的な手法(「独占禁止法各論」)の点から解説する。最後に時間があれば、同じく市場メカニズムに対する国家の介入でありながら理念的に独占禁止法とは異なる直接規制法についても講義することになろう。

講義はできる限り具体的に、事例を示しながら行なう。このことを通じて経済過程に対する介入の法の現代的意義を探ることが目標である。受講者は、他の科目、とくに財産法と行政法を同時に受講しなければならない。

テキスト(特に指定しない。以下のうち1つを求めて読むこと)

○「経済法」一般に関して 金沢良雄 「経済法(新版)」 有斐閣、

丹宗昭信・厚谷襄児(編) 「現代経済法入門」 法律文化社

○「独占禁止法」の教科書として 今村成和「独占禁止法(新版)」 有斐閣、

実方謙二 「独占禁止法入門」 青林書院新社、

正田彬・実方謙二(編) 「独占禁止法を学ぶ」 有斐閣

○さらに広く勉強したい者にとっての文献として

正田彬・富山康吉 「法と経済」 法律文化社、

正田彬(編) 「法と経済社会」 (NHK市民大学叢書) 日本放送出版

協会、実方謙二 「独占禁止法と現代経済」 成文堂、など

○判例・審決集(これは必ず買うこと)

ジュリスト別冊53 「独禁法審決・判例百選(第二版)」 有斐閣

経 済 刑 法

助教授 振 津 隆 行

経済刑法を学ぶためには、前提的にまず、刑法の一般的な基礎的諸原理の理解が是非とも必要である。そこで、講義の前半部分では、下記テキストに依りながら刑法の総論部分を講述し、その後、各論的視点から、経済犯罪といわれる領域の個別的諸問題に検討を加える予定である。

テキスト：西原春夫著『刑法総論』(成文堂)、及び平場・井上・滝川編『刑法概説(2)各論』(有斐閣)

参考書：平野龍一著『刑法総論Ⅰ、Ⅱ』(有斐閣)

中 義勝著『講述犯罪総論』(有斐閣)

中山研一著『口述刑法総論・各論』(成文堂)

藤木英雄著『刑法各論』(有斐閣大学双書)

藤木英雄著『経済犯罪』(日経新書)

西原春夫著『犯罪各論』(筑摩書房)

その他 別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ、Ⅱ』(有斐閣)

同 『続刑法判例百選』(同)

同 『刑法の争点』(同) 等。

無 体 財 産 法 (後 期)

助教授 和田 健 夫

本学初開講

無体財産法とは著作権法といわゆる工業所有権法(特許法、商標法、意匠法、実用新案法)によって構成される一法分野である。大学で講義されることは少ないが、現代経済社会においては非常に重要な地位を占めつつある。それらは、自由競争を犠牲にした独占の形成の法的承認という点で共通した性格をもつ。講義は、まずこのような法的独占が何故みとめられるのかということを経史を踏まえながら検討し、さらに現代経済におけるその意義を探ることに目標を置く。この目標のもとに、各法の具体的内容に入ってゆくことになるが、その際、とくに独占に対し反対の立場をとっている独占禁止法との対立・調整が大きな問題として取り扱われることになる。その意味では、本科目は、私の経済法講義の各論的性格をもつ。したがって受講者は経済法をも合わせて受講することが望ましい。

ただし時間(本来は4単位)および私の能力にもとづく制約のため、本年度は著作権法を講義の対象からはずさざるを得ない。また内容も個々の制度の詳細には立ち入ることができないと思う。

テキスト・教科書として本年度は次のものを指定する。

紋谷暢男編 「無体財産権法概論」(有斐閣双書) 有斐閣

労 働 法

助教授 道 幸 哲 也

雇用関係に由来する法的紛争をいかに解決すべきかを、主に裁判例を素材にして検討する。紛争の背景・原因、法的論点・裁判例の解説、討論との順序でおこなう。出席者はあらかじめ予習することとそれに基づいて自らの見解を発表することが義務づけられる。

講義内容は概略以下のとおり。

1. 市民法から社会法へ
2. 個別的労働法
労働契約, 賃金, 労働時間, 解雇, 労災等。
3. 集团的労働法
団交, 労働協約, 争議行為, 不当労働行為等。

テキスト: ジュリスト別冊「労働判例百選(4版)」有斐閣
予習用には, 久保敬治・下井隆史「労働法を学ぶ人のために(改訂版)」世界思想社 が良いと思う。改訂版は4月頃出版の予定。

環境法 助教授 飯塚和之

前期で「不法行為法」, 後期で「環境法」を講義の対象とする。

講義内容

- | | |
|----|-------------|
| 前期 | I 不法行為法総論 |
| | II 不法行為法各論 |
| | III 救済方法論 |
| 後期 | I 環境法総論 |
| | II 環境法各論 |
| | (1) 公害の規制 |
| | (2) 公害被害の救済 |
| | (3) 公害犯罪の処罰 |
| | III 環境管理計画論 |

テキスト: (前期)『新版民法(7)』(有斐閣双書), 1,200円
(後期)原田尚彦『環境法』(弘文堂), 1,500円

国際法 教授 大谷良雄

本年度の国際法も, 前期を従来の国際法の講義に当て, 後期はEC法の講義に当てる予定である。内容は次のとおり。

(前期)

- 第1章 現代国際社会と国際法の課題
- 第2章 国家の地位
- 第3章 国際法の存在と実現
- 第4章 領域の管轄と利用
- 第5章 個人と国際法

第6章 国際協力の法機能 (後期)

- 第1章 EC法の基礎
- 第2章 EC法の存在形式 — 法源 —
- 第3章 EC法の法的性格
- 第4章 EC法の効力関係
- 第5章 EC法の適用と解釈方法

参考文献

大平善梧・皆川洸編著「国際法講義」(昭和55年, 北樹出版)
小田滋他編著「わが国裁判所の国際法判例」(昭和53年, 有斐閣)
皆川洸・山本草二編著「演習国際法」(昭和52年, 青林書院新社)
内田久司・山本草二編著「国際法を学ぶ」(昭和52年, 有斐閣選書)
P. ベスカートル著(小田滋監修・大谷良雄・最上敏樹訳)「EC法—ヨーロッパ統合の法構造—」(昭和54年, 有斐閣)
大谷良雄著「EC法—新しいヨーロッパ法秩序の形成—」(昭和57年2月刊行 有斐閣選書)

国際機構論 助教授 丸山直起

第二次世界大戦後の国際社会の変容と将来の展望について, 最近の事例をできるだけ多くとり入れながら講義する。テキスト(細谷・白井編『国際政治の世界』有信堂)を使用する予定である。

講義においては, 現代国際社会の成立にいたる歴史的知識が不可欠となる。したがって世界史の深い関心と知識を, たとえば以下の参考文献によって補うよう努めることが必要である。

参考文献: 武者小路公秀『国際政治を見る眼』岩波新書, 齊藤孝『戦間期国際政治史』岩波書店, 岩波講座『世界歴史』岩波書店

国際経済法 講師 清水章雄

国際経済組織, 国際独禁政策, 国際貿易, 国際金融, 国際的雇用関係, 技術移転, 国際投資と国有化, 国際商事仲裁などに関する法律問題を扱う。

村上敦・他『貿易入門』(有斐閣新書), アクハースト『現代国際法入門』(敬文堂)に書かれている程度の国際貿易および国際法の基礎的知識があることを前提として講義を進めるので, これらの知識を持たない者は自ら補う必要がある。また,

序論として多国籍企業について考えてみるので、曾野和明『多国籍企業問題入門』（青林書院新社）を前もって読んでおくこと。必要な資料をプリントにして、適宜、配布するが、『六法全書』（有斐閣）および田畑・太寿堂編『ケースブック国際法（増訂版）』（有信堂）に載っているものはプリントしない。なお、『六法全書Ⅱ』は、毎回、講義に持参すること。試験に際しても、『六法全書』は持込可とする予定である。（『小六法』等では不十分である。）

他に、大谷良雄『EC法』（有斐閣選書）、丹宗・厚谷編『現代経済法入門』（法律文化社）、『現代法学全集52 現代の経済構造と法』（筑摩書房）が参考になる。

管理科学通論

非常勤講師 浅利英吉
（東海大学助教授）

近代の組織体の運営と社会への対応は既に人智を結集した科学の対象となっており、管理科学の名はここに由来する。管理科学通論ではまずこの学問と技術の連峰を広く展望し、ついでその脊梁山脈を形成している確率論・数理統計学へ入門する。ついでいくつかの数理手法—たとえば予測、線形計画法、シミュレーション—をえらび、その理論と実際を論ずることを通じて、管理科学を学ぶ基礎をやしなうことをはかるものとする。

管理科学Ⅰ

助教授 若林信夫

4月～7月：微視的経済理論

「双対性」の観点から、生産理論、需要理論、一般均衡理論、厚生経済学を学ぶ。

9月～11月：数理計画法

「数値解析」の観点から、線形計画法、二次計画法、非線形計画法、整数計画法を学ぶ。

12月～2月：シミュレーションとデータベース論

「応用確率論」の観点から、在庫、待ち行列を学ぶ。

開講時まで、教科書：根岸隆編著「経済学Ⅰ 価格の理論」（有斐閣双書）の4、5章を予習しておくのが望ましい。

管理科学Ⅱ

助教授 樋口透

ORは従来、企業の科学的管理を指向したものであるが、本論では、もう少し広

く、社会システムに焦点をあてる。つまり、社会に存在する矛盾や不合理性が何であり、またそれらをどのように解決し、調和のあるシステムとして存続させるか。このような観点からORおよびシステム論を考える。比較的新しい分野であり市販の文献にない理論や手法も取り入れるので講義に出席し、その場で理解することが肝心である。

教科書は用いないが参考書などは講義中に指示する。

管理科学Ⅲ

（前期）教授 戸島 熙
（後期）教授 沼田 久

前期：管理科学は、それが数値であれ数式であれ、とにかく最終的には「計算」ということに結びつくことになる。そこで、この講義の前期では管理科学の原論風に「計算」とはどういうことかを抽象的に考えてみることにする。これはいわゆる「計算の理論」であるが、それほど専門的でなくごく基礎的な考え方を解説する。そして、余裕があれば、述語論理などについてもふれてみたい。参考文献は講義で指示する。なお、ある程度の抽象的思考力を前提する。

後期：オペレーションズ・リサーチのなかの若干の分野をとり上げる予定であるが、受講者数の多少によって内容・やり方を変えることもある。例年、受動的な受講態度の者が多いので仲々うまく行かないが、いくつかの問題や話題について討議できたら良いと考えている。前期の講義内容とは殆んど関連はないので、そのつもりで受講すること。

管理科学 特講Ⅰ（前期）

助教授 清水川 緋紗子

教科書：未定

数表：統計数値表 — コンサイス版 — 日本規格協会

機械化会計

教授 山田 一生

機械化会計とは、その言葉の通り理解すれば、機械化された会計を意味する。より具体的には、会計処理の機械化を意味するのであり、伝統的には会計組織論の研究領域として認識されてきたのである。今日的には、会計学全般にわたる情報システムズ・アプローチの台頭によって、かなり広範囲の研究領域を包摂するものと言えよう。この研究領域は、1966年のAAAの「基礎的会計理論」（A Statement of Basic Accounting Theory）の表明以来、伝統的会計理論に対する強烈なインパクトとして認識され、Accounting Information Systemsあるいは情報シ

システムとしての会計を指向する「会計情報システム」へと発展されるのである。

このような会計研究に関する学術的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、とくにコンピューター・インパクトおよび情報科学の影響によって、新しく会計情報システムとして展開される。すなわち、会計情報システムは企業の経営管理に関して、(1)事後計算(報告的会計)、(2)現在計算(管理的会計)、(3)事前計算(予測的会計)のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなる。さらに、最近における DB/DC (Data Base/Data Communication) に関するソフトウェア技術分野での発展に伴って、「計画策定と予算編成プロセスへの意思決定支援システム」(Decision Package Programmes) の実証的研究なども登場したのであり、財務計画を中心とする Decision Support Systems の研究領域などは、今後ますます重視されるべき発展方向となるであろう。

本講座における具体的な講義内容としては、(1)会計処理におけるコンピューターの位置づけ、(2)会計とコンピューター・プランニング、(3)会計とコンピューター・オペレーション、(4)会計とコンピューターライズ MIS、(5)コンピューター時代の会計として、その体系化をはかる意図をもつが、講義と演習とを同時併行させる方式を実現できるよう配慮することにする。すなわち、演習プログラムの主要なものとしては、(i)仕訳プログラム、(ii)勘定記入プログラム、(iii)試算表プログラム、(iv)精算表プログラム、(v)修正財務諸表プログラム、(vi)デシジョン・パッケージ・プログラムなどについて、COBOL 言語を中心とする DB/DC アプローチを展開する予定である。これらの同時併行作業を通じて、会計情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに、機械化会計の諸問題についても論述する。

主要参照文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを列挙する結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

事務機械化

教授 山田 一生

現代のマネジメントは、激動する環境の中で、たえずその環境の変化に適応するための経営革新を遂行しなければならない状況におかれている。本来事務機械化とは、事務作業の機械化を意味し、事務機械化の発展は、(1)事務作業そのものの解明。(2)事務システムの検討。(3)管理活動のルーチン化などの点からアプローチすることができる。ところが事務の本質上からして、次第に事務機械化が発展すると、一定

の段階で質的に転化し、マネジメント職能の部分的機械化現象が必然的に生じるのであり、いわゆる経営機械化へと移行するのである。

したがって、現代の事務機械化は、単に事務作業の機械化のみを対象とするのではなく、特に現実の企業経営における情報処理機能の重視という観点から、管理のための準備業務を担当する管理事務機能の機械化、自動化を志向するものとなる。このように、現代の事務機械化は、経営管理と密接不可分の関係にあり、今日的には情報システムズ・アプローチの適用によって、さまざまな管理システムへのアプローチを登場させている。管理情報システム(Management Information Systems)はもとより、そのアプローチの一方法にすぎないのであるが、企業経営における情報システムの機能が重視されるとともに、単に情報を生産するだけではなく、豊富な情報の中から真に経営意思決定に役立つ情報を検索し提供するシステムとして究明される。すなわち、管理情報システムは、経営管理への情報システムズ・アプローチとして展開されるのである。

ここで、経営情報論の生成過程について、MIS 研究の立場からの体系的検討を試みるとすれば、まず MIS 前史としての事務管理論(事務の機械化レベル)から、経営事務管理論(管理の機械化レベル)、経営情報管理論(経営の機械化レベル)へと発展段階的にとらえるのであり、さらにはより人間中心的なアプローチである経営組織管理論(組織システムのレベル)へと展望されるであろう。本講座では、これらの詳細についても考察する予定である。

テキスト：山田一生著『組織変革と情報システム』(文真堂)

情報処理

助教授 杉本 英二

コンピュータを相手にゲームをするには、ゲームのルールと、それらルールの適用の仕方を教えねばならない。しかし、それだけだと少しも強くはないので、勝負はつまらなくなる。そこで必要となるのが、推論という論理的計算である。コンピュータは計算する機械であるから、人間を打ち負かすにちがいないと考えるのは妄想である。数値的計算能力は抜群だけど論理的計算はダメに近いのである。なぜダメなのかを講義することにした。

予定として、次の3つの章を考えている；

1. 記号論理学
 - (1) 命題論理
 - (2) 述語論理
2. 自動証明

(1) 導出原理

(2) 証明探索戦略

3. 形式システムの応用

(1) prolog 言語

(2) ゲーム

(3) 質問応答システム

テキストは使わない。参考書などは講義中に指示する。なお、コンピュータは、ほとんど使わないつもりである。

応用数学 (代数)

教授 沼田 久

経済学、管理科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数が経済学や経営科学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論 I、応用数学 (解析) とともに、管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが、若干の数学的センス (論理的能力と言ってもよい) または、ある程度の根気が必要である。当然のことながら、最後まであきらめずに頑張り通す者に好意を寄せたくなるのは人情である。しかしながら大学は一定以上の能力を身につけた人間を送り出すことを世の中に期待されているのであるから、単に 6 単位欲しさから受講するというような者は、一年間を無駄にすることになることを覚悟しておくこと。

教科書: 沼田久『線形数学序説』(学術図書出版社, 1979)

応用数学 (解析)

非常勤講師 小林 正 忠

(元北海道大学教授)

テキスト

松田 正一

洲之内治男

杉山 昌平

共著 ORのための基礎数学 丸善

講義内容

前期 差分方程式

1 差分

2 和分

3 線形差分方程式

4 差分演算子と和分演算子

後期 微分方程式

1 求積法

2 線形微方程式

3 微分演算子

5 微分演算子と差分演算子の関係

6 経済学への応用

4 初期値問題と境界値問題

5 ラプラス変換

6 経済学への応用

参考書

1 杉山昌平著 差分方程式入門 森北出版

2 高橋健人著 差分方程式 培風館

応用数学 (統計 II)

助教授 清水川 緋紗子

教科書: P. G. ホーエル著『入門数理統計学』4版 培風館

参考書: 竹内啓他著『2項分布とポアソン分布』 東大出版会

柴田義貞著『正規分布』— 特性と応用 — 東大出版会

計算機論 I

(前期) 助教授 杉本 英二

計算機論 I はコンピュータ利用のための入門としての講義をする。特に前期は、その性格が強い。計算機の仕組み、プログラムの働らきなどの導入に続いて、プログラム言語 FORTRAN について説明する。

この FORTRAN 言語は、科学技術計算用に作られた言語であるが、科学技術計算以外にも非常に多く使われている重要な言語である。これの特徴は、まず入門者にとって覚えなければならない量が少ないことである。覚える量が少なければ、すぐコンピュータを使えるようになるが、プログラミングの理解はそうやさしくはない。できるだけ講義中の例題の変形を学生諸君が自分で作り、実際どうなるかをコンピュータで試みることが学習にはとてもよいと思われる。その学習のために、一週間のうち 2~3 時間を計算センターで費やすように学生諸君のカリキュラムを組まれるよう希望する。

5 月はじめまでに、計算センター利用の届けを出しておくこと (印鑑必要)、また実習のために計算機用のカードが必要となるので生協で各自購入のこと (500 枚くらいでよい)。

テキスト;

森口繁一「JIS FORTRAN 入門 [上]」 東大出版会。

計算機論 I (後期) 助教授 若林 信夫

10月～12月：プログラム言語 Pascal を用いて、各種の算法とデータ構造について学習する。例題は、整数演算、実数演算、関数と反復、テキスト処理、再帰、内部ソート、バックトラック、リストと木構造、エディタ、およびコンパイラ/インタプリタなどを含む。

1月～2月：記号処理プログラム (Lisp) and/or
ロジックプログラム (Prolog)

教科書、参考書は、講義の前に指示する。

計算機論 II 教授 戸島 潤

リスト処理言語 Lisp によるプログラミングとその処理系を論ずる。年間約20題程度の演習問題をこなしてもらう。時間があれば人工知能の諸種のテクニックにもふれる。下記の本をテキストとして使用することを予定している。

後藤、戸島、石畑；記号処理の基礎と応用、情報処理叢書8、情報処理学会、昭和57年。

参考文献は講義の展開にしたがって指示する。講義の目標は Lisp を通じて計算機科学の基本概念と技法を理解してもらうことである。単なるプログラミング言語の解説とは全く違うので注意してほしい。なお、ある程度のプログラミングの経験を前提する(言語は問わない)。

6. 教職科目

教育原理

助教授 増井 三夫

教育は人間の意識=人格の形成に組織的・意図的にかかわり合う社会的機能の一つである。つまり教育は社会の支配的な意識形態の形成に関与する。本講義は、この点に注目して、人間の意識=人格の形成過程を特に歴史との関係に於いて分析する。但し、本講義は、かかる課題を分析する方法そのものを確立する仕事も兼ねている。

下記の図書は講義の中で具体事例を挙げる時に使用する。

森岡修一訳、ルリヤ『認識の史的発達』 明治図書

商業科教育法(後期)

非常勤講師 横川 義雄
(札幌大学名誉教授)

本年度より高校の学習指導要領改訂するに当り、特に高校における商業教育の質的改善の内容と学習指導方法のあり方についての基礎的な学習指導理論と指導技術に関する課題をとりあげる。

- (1) 教育の基本的役割
- (2) 新しい高校学習指導要領の目的
- (3) 職業教育における商業教育の果たす役割
- (4) 商業科の新教育課程の編成について
- (5) 商業科目「商業経済I」「簿記会計I」「情報処理I」を中心とした指導内容の分析
- (6) 学習指導の原理
- (7) 学習指導の方法(講義法、Q&A、プログラム学習など) —各国の指導法との比較—
- (8) 学習指導のProcess
- (9) 学習指導案の構成と作成
- (10) 学習指導の実践 —Case Study—

テキスト 田中雲英編著「商業教育論」 多賀出版

英語科教育法

助教授 下村 五三夫

教科書

クロード・ロベルジュ編著

『ザグレブ言語教育—理論と実践—』

出版社 学書房出版 1,300円

ザグレブ大学(ユーゴスラビア)音声学研究所教授であるベタル・グベリナの唱えるヴェルボ・トータル・システムへのいざないをいたします。この理論は、言語教育を応用言語学、視聴覚心理学、音声学の諸分野から総合的にとらえた教育方法モデルであります。

日本ではごく一部の研究者にしか知られていません。それだけに学生諸君の積極的な参加を望みます。

道德教育の研究(前期)

非常勤講師 浅井 正三
(北海道女子短期大学教授)

道德教育の根本問題について学生の理解を深めることを目的とします。主な内容は：

わが国の道德教育の歩み。

諸外国に於ける道德教育。

道德教育の基盤。

参考文献は必要に応じて講義中に指示します。

教育史

助教授 増井 三夫

本講義はプロイセン近代教育史を扱う。ここではユンカー=農民関係、軍制、宗教政策及び教育政策との関係を分析することによって、近代プロイセンに於ける民衆意識の支配構造を解明したい。

尚、本講義は前年度の続きになる。

基本図書

藤瀬浩司、『近代ドイツ農業の形成』お茶の水書房

大野英二、川本和良、大月誠訳 ハンス・ローゼンベルク『ドイツ社会史の諸問題』未来社

梅根悟、『近代国家と民衆教育』誠文堂新光社

井上幸治監訳 イブニマリー・ベルゼ『祭りと叛乱 — 16~18世紀の民衆意識』
新評論

職業指導

非常勤講師 石井 茂
(北海道教育大学札幌分校教授)

- 一、職業指導の問題所在
- 二、職業指導と進路指導
- 三、職業と教養について
- 四、職業指導の史的考察
- 五、わが国の職業指導の歴史
- 六、職業指導理論
- 七、産業構造、職業構造
- 八、企業と教育
- 九、職場の人間関係
- 〇、進路指導の現状と問題

はじめに、問題の所在をのべて講義を展開するが、その展開には、多少の変更もあることをおことわりしておきたい。

英文学概論

教授 豊国 孝

テキスト：D. H. Lawrence: *Sons and Lovers* (Penguin Books) ￥880

中橋一夫『ロレンス』(研究社) ￥1,500

まず、1920年代までのイギリス小説の歴史を概説する。

つぎに、20年代の代表的作家である D. H. Lawrence をとりあげ、彼の小説を中心にして D. H. Lawrence 論を試みる。したがって、長編小説を英語で読む程度の英語力を必要とする。参考図書は適時紹介する。

英文学演習Ⅱ(後期)

教授 永原 和夫

Ulysses 研究

テキスト：James Joyce, *Ulysses* (A Vintage Giant)

参考文献：1. Harry Levin, *James Joyce: A Critical Introduction* (Faber

& Faber 1961)(飛田・永原訳、『ジェイムズ・ジョイス - その批評的解説 -』、北星堂書店、¥2,000)

2. Weldon Thornton, *Allusions in Ulysses: An Annotated List* (University of North Carolina Press, 1961)

今世紀最大のイギリス散文の輪読である。相当の準備があるものと覚悟すること。なお、一般英語E201およびE301のいずれかに出席することが望ましい。

英語学概論(前期) 教授 武本昌三

A. H. Marckwardt: *American English* (Oxford Univ. Press
-北星堂版でもよい)

Marckwardt & Quirk: *A Common Language* (研究社)

上記二冊のテキストを併用しながら、週二回ずつの講義を行ない、前期だけで終了する。出席を重視し、欠席が三分の一を超える者には例外なく単位は認めない。遅刻はすべて欠席扱いにする。

英語学演習Ⅱ (前期)非常勤講師 浪田克之介

(北海道大学助教授)

(後期)非常勤講師 北市陽一

(北海道大学教授)

Henry Bradley: *The Making of English* (成美堂)

英語史の入門書としてつとに定評のある Henry Bradley: *The Making of English* を Semeon Potter が改訂した版をテキストとして、文法上の変化、外来語、語形成、意味変化などを検討する。テキストは成美堂発行の国内版。

(なお、北市講師が担当する後期については、改めて指示がある予定。)

英会話・英作文

(Composition and Conversation) 外国人教師 Michael Carr

(No textbook, copies of readings will be provided.)

The three requirements for this course are: attendance,

compositions, and conversation. 1) Attendance is mandatory.

More than three unexcused absences will automatically result in failure. 2) Compositions of various lengths will be assigned

approximately every week. All compositions must be typed.

3) Conversation will be practiced during class discussions

Participation in the class discussions will also affect grades.

Ⅲ 研究指導要項

麻田教官担当研究指導

1. 研究主題

国際経済学(理論および政策)の諸問題

2. 指導要項

3年生は原書(英語)の輪読。卒業年次生は個別テーマによる卒論指導

3. テキスト

R. E. Caves and R. V. Johnes, *World Trade and Payments*. (1977)

足立教官担当研究指導

1. 研究主題

国際金融に関する諸問題……国際通貨制度、為替相場制度、金問題、SOR, L/Cなど

2. 指導要項

(イ) 全般……小樽商科大学の卒業生として恥ずかしくないだけの国際的視野と語学力の養成に重点を置く。

(ロ) 3年次……国際金融の基礎理論と実際およびこれらに関連した語学力の養成、3年次生は必ず国際金融を履修し、単位を取得すること。

万一単位を取得できない場合は、自動的にノンゼミに移行する。

(ハ) 4年次 個別的研究指導および卒業論文

3. 指導テキストおよび参考書

(イ) 3年次……講義のはじめに指示する。

(ロ) 4年次……プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

井上教官担当研究指導

1. 研究主題

British Economic History in the 19th Century.

2. 指導要領

3年次および4年次の前半まで、約1年半をかけて19世紀のイギリス社会経済史に関する標準的な文献(英文)を輪読します。4年次前半にはまた卒業論文作成準備のため、わが国の研究文献も併読する予定です。4年次後半は卒業論文の作成指導に重点を置きます。

3. テキスト

S. G. Checkland, *The Rise of Industrial Society in England 1815-1885*, 1964.

早見教官担当研究指導

1. 研究主題 財政理論・財政政策に関する諸問題

2. 指導要領 3年次(昭和57年度)には、まず以下の文献をよむ。

Dornbusch & Fischer, *Macroeconomics*-(McGraw-Hill, 1981, 2nd ed.)

4年次には、卒業論文の要旨をレポートしてもらう。

3. 申込の条件 (1)経済学概論を履修済みであること。(2)数学, 統計学を履修すること。(3)英語力にすぐれていること。(4)経済学科に所属すること。(5)10名以内で締切る。

久次教官担当研究指導

1. 研究主題

統計学の数理的方法論に重点をおく。

2. 指導要領

3年次: テキストの講読・討論・演習

4年次: 追加文献の講読および卒業論文の作成

3. 指導テキスト

3年次生: Dhrymes, "Introductory Econometrics"

4年次生: Pindyck & Rubinfeld, "Econometric Models and Economic Forecasts"

4. 申込みの条件

「統計学」を履修中の者。

5. その他

(1) 解析学(偏微分など), 線形代数(逆行列, 固有値など), プログラミング(FORTRAN)については, 2年次までに修得しておくこと。

(2) 3年次において「数理統計学」, 「計量経済学」を受講すること。

藤井教官担当研究指導

3年次 ドーンブッシュとフィッシャーの共著の『マクロ経済学』(第2版)を読むことから始めます。

4年次 ヒックス『因果律』をクイック・レビューしたあと, 一番新しい『経済白書』を読んでから, 卒業論文の報告にはいります。

増井教官担当研究指導

1. 研究主題

景気変動の理論的・実証的研究

ポスト・ケインジアン=ポスト・フリードマン期のマクロ経済学新総合による経済変動理論のレビューおよびわが国現代経済の実証的研究をテーマとする。

2. 指導要領

第1年目: 基礎的文献の輪読

第2年目: 個別研究発表と卒業論文作成

3. 指導テキストおよび参考書

テキスト: M. Desai, *Testing Monetarism*, Frances Printer 1981.

参考書: J. トービン, 『マクロ経済学の再検討』(浜田・藪下訳)日本経済新聞社; R. E. Lucas, Jr., *Studies in Business-Cycle Theory*, MIT

Press, 1981; R. J. Barro, *Money, Expectations, and Business Cycles*, Academic Press, 1981; 経済企画庁『経済白書』, etc.

4. その他

3年生は経済変動論, 計量経済学を履修すること。無断欠席は除名を招くことに注意すること。

吉武教官担当研究指導

1. 研究主題

社会政策及び工業経済学の諸問題

2. 指導要領

(イ) 3年生は下記英文原書の2冊のうちいずれか一冊をよむ予定。

(ロ) 4年生は各自卒業論文にとりかかる。

3. 指導テキストおよび参考書

OECD, *THE WELFARE STATE IN CRISIS* 276pp.

4. 申込みの条件

1. 経済学概論履修済み者及び2年次で経済学概論履修中のものに限る。

2. 経済学科所属のものを採用する。

3. 学科所属決定の際の1年次の成績が悪い者とはとらない。

5. その他

採用人員は12名程度。ゼミナールを許されても無断欠席連続3回行った場合除名する。

鶴沢教官担当研究指導

1. 研究指導

理論経済学

2. 指導要領

3年次では、外国書(英語)による輪読、その他の論文を読む予定。

4年次では、個別テーマに基づく卒業論文作製のための報告と討論を中心にする。

1982年3月卒業生のテーマは、次のようになっている。

「スタグフレーションの理論と現状」, 「複占における市場形態」, 「ゲーム理論」, 「レヴィールド・ブリファレンス」, 「経済循環の基本構造」, 「プロ野球の所得分析」, 「レーガン登場後のアメリカ経済学の流れ、供給の経済学」。

3. 指導テキストおよび参考書

Malinvaud, E., *Lectures on Microeconomic Theory*, North-Holland, (1980年度使用)

Kogiku, K. C., *Microeconomic Models*, Harper and Row, (1981年度使用)

Russel, R. R. and M. Wilkinson, *Microeconomics, A Synthesis of*

Modern and Neoclassical Theory, John Wiley, (1982年度使用予定)

参考書: 二階堂副包『数理経済学入門』(日本評論社, 1971)

新開, 新飯田, 根岸『近代経済学』(有斐閣, 1972)

奥口, 西村, 藤本, 丸山『経済数学入門』(有斐閣, 1980)

4. 申込みの条件

経済学概論, 数学を履修済で, 経済原論Iを履修中または履修済みの事。

英語の読解力が高いこと。積極的, 協調的な人(ゼミ旅行やコンパなどにも参加できる人)。研究意欲のある人あるいは, 地道に勉強しようとする人。以上の条件のうち, 少くも一つを満たしていることが要求される。

遠藤教官担当研究指導

1. 研究主題 計量経済分析

2. 指導要領 3年生はテキストの講読, 4年生は卒業論文の作成。

3. テキスト Dhrymes, *Introductory Econometrics*.

佐竹教官担当研究指導

1. 研究主題

国際経済と国際経済学に関する諸問題の研究。特に日本をめぐる近年の国際経済問題と, それを理解し説明するための理論的フレームワークの設定に関心がある。

2. 指導要領

3年生は, 国際経済学の基礎的な理論を学ぶために, 下記のようなテキストを読む。

4年生は, 卒業論文を作成する。参考までに, 昨年の卒業生のテーマを挙げておくと, 日欧貿易摩擦, 日本の貿易構造と貿易摩擦, 柑橘類の輸入自由化, 変動相場制下の為替レートの調整効果, 国際収支のマネタリー・アプローチ等であった。

3. テキスト Kindleberger and Lindert, *International Economics*, 1978.

長谷川教官担当研究指導

1. 研究主題

日本近世経済史，ただし今回は前年度に引続き北海道経済史（松前藩の成立～明治維新）とする。

2. 指導要領

3年次 — 下記テキストの講読。あわせて日本経済史の理解も深める。

4年次 — 研究論文および関連史料の講読。

卒業論文のテーマは北海道経済史に限定しなくともよいが，3年次末までに方針を立てること。

3. 指導テキストおよび参考書

テキストは下記のうちより2冊位の予定。

榎森進著『北海道近世史の研究』北海道出版企画センター 4,000円

海保嶺夫著『幕藩制国家と北海道』三一書房 4,500円

高倉新一郎著『新版アイヌ政策史』三一書房 4,900円

日本経済史の参考書として、『岩波講座日本歴史』（旧版・新版），有斐閣『講座日本近世史』（全10巻）等がよい。

4. 申込みの条件

歴史学・経済史概論・社会思想史・経済原論Ⅱ等を履修していることが望ましい。

5. 選考の方法（面接・テスト等）

レポート審査と面接による。

その他

積極的な研究意欲と行動力を期待する。またゼミナールとしての共同の作業や行動を大事にしてほしい。

石原（定）教官担当研究指導

1. 研究主題

証券市場論，現代信用理論，株式会社と金融資本

2. 指導要領

基本文献の講読，報告，討議およびレポート作成

3. 使用テキスト

川合一郎編『現代信用論』上・下（有斐閣）

久野教官担当研究指導

1. 研究主題

会計学（簿記学をふくむ）

2. 指導要領

3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。

4年次：卒業論文の指導 — 各人の発表をもとにしてディスカッションを行なう。

3. 指導テキストおよび参考書

3年次の後半において使用する外書は学生諸君と相談のうえ決定する。

4. 申込みの条件

2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し，かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者。

5. その他

ゼミという組織にかんがみ，ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

斎藤教官担当研究指導

1. 研究主題

商品の使用価値を中心とした価値並びに現代における商品の社会的価値をミクロ的には，品質要因，価格要因，販売活動要因（広告など）さらに，マクロ的には，資源環境要因，生活環境要因とも関連づけて追求する。

2. 指導要領

(イ) 全般：上記の主題に関する原書や論文を講読し，報告，討論を通じて理解を深める。

(ロ) 56年度：入門書的な原書を講読し，基本的知識の修得とその応用力を養う。

(ハ) 57年度：個人テーマによる文献講読と卒業論文の指導。

3. 指導テキストおよび参考書

使用テキスト L. Abbott Quality and Competition (1972)
その他 商品政策, 消費者保護政策, 社会生態的マーケティングに関する参考書。

篠崎教官担当研究指導

1. 研究主題

バーナード組織論と人間行動

引続きバーナード組織論を中心に, そこから提起される問題を取上げてみる。
一つは官僚制であり, 一つは疎外論である。

2. 指導方針

当初, 社会科学的なものの考え方を基礎的に固め, 漸次具体的組織論へと進み, 最終的には卒論作成へと導く。

3. テキスト, 参考書

大塚久雄「社会科学の方法」, 内田義彦「社会認識の歩み」; 同「資本論の世界」以上岩波新書, バーナード「経営者の役割」, ダイヤモンド社, 三戸公「官僚制」春秋社。

鈴木教官担当研究指導

ゼミナール

1. 研究主題

International Portfolio Investment もしくは
International Business Finance.

2. 現在使用しているテキスト

G. Dvfev & J. H. Giddy, The International Money Market 1978.
R. I. McKinnon, Money in International Exchange 1979.

山下教官担当研究指導

1. 研究主題

マーケティング経営システム論。特に, 今年度の重点対象領域は, 販売員活動の理論とします。

2. 指導要領

(イ) 基本的文献の講読。(ロ) シミュレーション・モデル・ビルディングとその操作。
(ハ) 卒論指導。

(ロ) は, 三・四年次生合同ゼミの形でも行う予定である。

(ハ) は, 四年次生についてである。

3. テキスト

- 3年次前半 Peferson, Wright & Weity "Selling" Irwin 1981.
- 3年次後半 Churchill Ford & Walker "Sales force Management" Irwin 1981.
- 4年次生 雑誌論文中心。

和田(完)教官担当研究指導

精神障害と職業

精神障害の準備因としての労働環境, 職場における人間関係, 職種, 失業等々の要因を, 心理学的, あるいは社会病理学的な立場から考察し, その原因の分析, 治療, 予防等への接近を試みる。

文献は随時指定(貸与, コピー, 購入かをその都度指示)し, できるだけ多読してもらおう。また, 関連施設の見学, 実地調査も並行して行なわれよう。

鵜野教官担当研究指導

研究主題; 経営組織論

指導要領; 2年間を三期に分ける。

(1) 組織論の知識を習得するため, 適当な文献を指定し, それを各自分担して報告してもらおう。

(2) 組織現象の測定に必要な統計的手法を習得するため, 適当な文献を指定し, それを各自分担して報告してもらおう。

(3) 組織現象を実際に測定し論文を作成してもらおう。

指導テキスト; 3年次, 清水龍螢, 『企業行動と成長要因の分析』, 有斐閣

芝祐順, 『行動科学における相関分析法』, 東京大学出版会

岩田暁一, 『経済分析のための統計的方法』, 東洋経済新報社

その他; 上記のテキストはあらかじめ購入しておくこと。

小田教官担当研究指導

1 研究主題

企業形態論にかかわる諸問題。

2 指導要領

まず、企業形態論の全体的枠組を基礎的に理解した後、今年度後半は社会主義企業の諸形態を重点的に研究することにしたい。なお、4年次においては各自の選択したテーマに関する報告と討論が中心になる。

3 指導テキスト

大島国雄著『企業形態論』、同文館、1975年。

S. Kamenitser, The Experience of Industrial Management in the Soviet Union, Moscow, 1975.

辻原教官担当研究指導

比較史的観点を導入しながら、日本の経営についての研究を行いたいと思います。

4年生； 日本企業のマーケティング史

3年生； 現代的なトピックスを盛り込んでBusiness Week誌やその他の週刊誌を読むと共に、Harold F. Williamson (ed), Evolution of International Manegement Structures, Univ. of Delaware Press, 1975 を読みます。

中教官担当研究指導

1 研究主題

管理会計

2 指導要領

3年次生； 管理会計の概観と基本的な概念の理解をえるために下記の文献を読む。

宮本匡章「会計的情報と意志決定」中央経済社、昭和53年、なおこれと平行して、今年度の3年次生については、特定のテーマを設定してグループ研究を行なってもらう予定である。

4年次生； 各自の選択したテーマについて報告と討論を繰り返しながら最終的

に卒業論文の作成へ導く。

3 申込みの条件

2年終了時に簿記学の単位を取得可能なもの。

林教官担当研究指導

1 研究主題

労務管理論および組織心理学

2 指導要領

3年次生； まず上記の研究主題について基礎的認識をもってもらい、できるだけ早い時期に個人研究のテーマを設定できるようにしたい。

4年次生； 個人研究の報告と議論（実証研究を奨励したい）

3 指導テキストおよび参考書（論文も含む）は多数、適宜指示。

森田教官担当研究指導

1 研究主題

国際経済に関する諸問題。

2 指導要領

基礎的な分析用具の修得に努め、現実の諸問題に適用する能力を養うことを目標とする。

3 テキスト

未定。

福島教官担当研究指導

1 研究主題

原価計算および管理会計

2 指導要領

3年次 — 前半では原価計算の基礎知識を修得し、ひきつづき外国文献（英文）の輪読によって原価計算・管理会計の知識を深め、同時に問題意識を培う。

4年次 — 各自選択した卒業論文のテーマにもとづいて発表と討論をおこなう。

3 テキストおよび参考書

テキスト — 3年次前半では諸井勝之助『原価計算講義』（東京大学出版会）。
後半の外国書は未定。

参考書 — ゼミの時間に適宜指示するほか、春・夏・冬の各長期休暇には一冊ずつ参考書を読んでレポートを提出してもらう。

4 留意事項

ゼミには旺盛な研究意欲とならんで地道な学習努力を要求する。

大谷教官担当研究指導

1 研究主題

国際社会における法秩序の研究（国際法，国際組織法，国際経済法，ヨーロッパ共同体法を含む）

2 指導要領

3年次； 原書講読

4年次； 卒論作成指導

3 指導テキストおよび参考書

所属決定後相談の上決定する。

神田教官担当研究指導

1 研究主題

民法学上の重要問題の検討

2 指導要領

重要判例や事例問題の研究をととして民法学の理解を深める。

4年次の9月以降は，卒論指導を中心とする。

3 指導テキスト

「民法の争点」ジュリスト増刊，有斐閣

その他はのちに指示します。

4 申し込みの条件

財産法Ⅰを履修中の者であること。但し，2月に行なう財産法Ⅰの試験で及第点をとれない者は，その時点で辞退することを期待する。

3年次または4年次で財産法Ⅱを履修すること。

5 選考の方法（面接・テスト等）

参加希望者が異常に多い場合にのみ行なう。その方法は後日通知する。

6 その他

研究意欲旺盛で地道に勉強する態度が必要です。なお，相当の理由なく欠席する者に対しては卒論の相談に一切応じません。

青竹教官担当研究指導

1 研究主題

会社法の研究

2 指導要領

会社法に関する判例を通じて会社法が現実の企業活動とどのようにかかわっているかを理解してもらう。なお，4年次の後半は卒業論文の作成指導とする。

3 指導テキストおよび参考書

(1) ジュリスト別冊『会社判例百選（第三版）』 有斐閣

(2) ジュリスト別冊『商法の判例（第三版）』 "

(3) 鈴木他編『新商法演習1，2』 有斐閣

(4) 青竹『小規模閉鎖会社の法規整』 文真堂

飯塚教官担当研究指導

1 研究主題

環境判例の研究

2 指導要領

主要な環境判例を素材に日本の環境法の実態を検討する。

3 指導テキスト

『公害・環境判例（第二版）』 有斐閣 1,200円

石原（全）教官担当研究指導

1 研究主題

(イ) 商法上の諸問題

(ロ) 普通取引約款の基礎的理論

2 指導要領

- (イ)については、ケース・スタディにより商法理論の理解の深化を図る。
(ロ)については、適当な英語文献を輪読し、討論する。

道幸教官担当研究指導

1 研究指導

労働判例の研究。それを通じて正確な文章理解，文章表現および討論の仕方自身につけることを目的とする。

2 指導要領

ゼミの期間中に労働判例（リーディング・ケースおよびそれに関連する最近の注目すべき裁判例）を徹底的に読む予定。全員が毎回なんらかの形での意見発表が義務づけられる。

3 指導テキスト

判決文はその都度指定。

振津教官担当研究指導

1 研究主題

刑法解釈学上の基本問題（刑事法一般の重要問題をも含む）。

2 指導要領

刑法学上の基本的，かつ重要な問題点を採り上げ，担当報告者の報告をもとに討論する。特に4年次生については，卒論指導をも顧慮して，問題点の徹底的な討議・検討をなしたい。

3 指導テキストおよび参考書

テーマに応じて，その都度指示する。

丸山教官担当研究指導

1 研究主題

戦後国際社会の変容

2 指導要領

3年次生 — テキストの講読と討論を中心とし，同時に様々なテーマについて

討論する。

テキスト Holsti, O. R., R. M. Siverson and A. L. George (eds.),
Change in the International System, Westview, 1980.

4年次生 — 卒業論文の作成。

結城教官担当研究指導

1 研究主題

(イ) 近代立憲主義の基本原則

(ロ) 最新憲法判例の検討

2 指導要領

(イ)を全体的なテーマとし，下記の文献を素材として研究・討論する。この間，新たな憲法判例が出された場合，随時これを検討する。

3 指導テキストおよび参考書

(イ) K. C. Wheare, *Modern Constitutions*, chap. I ~ IV (コピーを使用)
飯坂良明他編『社会契約説』 新評論。

(ロ) 『判例時報』を随時使用。

上記のテキストの他，ロック『市民政府論』，ルソー『社会契約論』，杉原泰雄『国民主権の研究』を参照のこと。

和田（健）教官担当研究指導

1 研究主題

独禁政策上の諸問題の検討

2 指導要領

次の2部に分かれる。

○第Ⅰ部 ケーススタディ，独禁法に関する審決，判例の研究，各自に割り当て報告，毎回全員にレポート提出が義務づけられる（だいたい3年次）。

○第Ⅱ部 個別テーマごとの研究報告，各自にテーマと課題が与えられそれに従って報告，報告者にはレポート提出が義務づけられる（だいたい4年次）。ゼミ参加者は財産法Ⅰ・Ⅱ，行政法Ⅰの講義に毎回出席し，所定の単位を修得しなければならない。

3 指導テキスト

教科書としては「経済法」教授要目に掲げた文献参照，各自いずれかを用いること。ただし次のものは必ず揃えなければならない。

- ジュリスト別冊53 「独禁法審決・判例百選（第二版）」 有斐閣
- 「教材独占禁止法審決判例」 北海道大学図書刊行会
- 宮坂富之助・金子晃・高橋岩和（編）「経済法資料集Ⅰ・法令編」 成文堂

清水教官担当研究指導

1 研究主題

外国投資および経済開発に関する法律問題の研究。

2 指導要領

下記テキストにより，問題演習を行う。

3 指導テキスト

Weston, Falk & D'Amato, International Law and World Order, Chapter 7, Problems in Economic Well-being (1980)

戸島教官担当研究指導

Lisp の処理系の開発を行なう。そのためにマイクロコンピュータの Lisp 処理系を徹底的に解剖し解説する。これによって会得した諸技法を用いて新しく Lisp の処理系を設計し，それを実現する。そのさい，Lisp コンパイラに特別の注意をはらう。参考文献として，とりあえず下記の本をあげておく。

Allen, John; *Anatomy of LISP*, McGraw-Hill, New York, 1978.
その他の文献：必要に応じて指示する。

沼田教官担当研究指導

1 研究主題

オペレーションズ・リサーチ

種々の計画法，最適化法についてその考え方，手法を学ぶ。

2 指導要領

- 外国書（英語）の読み方の訓練

- 理解したことをわかり易く発表する訓練

- OR的なものの考え方の訓練

- オペレーションリサーチには寄想天外な発想が必要です。必要以上に真面目すぎる人は不向きです。（もちろん，不真面目な人はいけません）

3 指導テキストおよび参考書

Elmeod S. Buffa & James S. Dyer Management Science/Operations Research Wiley, 1977.

4 申込みの条件

- 管理科学概論の履修していること。
- 通常の年限で卒業する見込みが十分あること。
- 応用数学（代数）の成績は，良いに越したことはありませんが，それだけで選考するわけではありません。英語力も大切です。

山田（一）教官担当研究指導

1 研究主題

Decision Support Systems for Organization and Management.

組織管理と情報システムに関する理論的ならびに実証的研究。（広義の経営科学，主にコンピュータ・アプリケーション問題，組織科学と情報システムとの関連研究の立場から意志決定支援システムの実証的研究を展開。上記の目的を達成するためにプロジェクト研究への共同参加・特定モデルの開発研究などサブゼミ活動を予定する。）

2 指導要領

(イ) 全般：現代に生きるテクノクラートとしての基礎理論と応用能力の涵養をはかり，組織の時代を先導するシステム・エンジニアとしての資質の向上を目標とする。

(ロ) 57年度：使用テキストに従い，輪読形式で討論をすすめる。サブゼミ活動も同時併行する。

(ハ) 58年度：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成，理論と実践との橋渡しをはかる各種事例研究も同時併行する。

3 指導テキストおよび参考書

〔組織科学＝情報科学＋決定科学＋行動科学〕という基本的視座から，Decision Support Systems に関する主要文献について取り上げる予定である。なお，

具体的学習計画は参加者と相談の上決定する。

4 申込みの条件

積極的な参加意欲と自己管理に厳しい人物で、独創性と協調性との両立を条件とする。真の人間尊重をめざした道具としてのコンピュータ活用の実現に向けて全力投入できる努力家を歓迎する。

清水川教官担当研究指導

1 研究主題

統計学の手法を学ぶ。

2 指導要領

まずテキストの問題演習を行う。次に手法の応用を学ぶ。

3 指導テキストおよび参考書

R. V. Hogg; Introduction to mathematical Statistics
Fourth Edition, 1978.

杉本教官担当研究指導

情報処理の基礎理論の研究

情報処理とは記号列の交換のことである。その際、有限の資源（計算、時間、メモリ、人的エネルギー）を有効に活用する代数的、組合せ的あるいは回帰的構造の理解を目標とする。

3年生は、主としてデータ構造についての理解を深めるため、輪読と演習を行う。

4年生は、卒論指導が中心である。

樋口教官担当研究指導

1 研究主題

社会システム・モデルについての理論的および実証的研究。

2 指導要領

3年次生：主としてテキスト講読。他にプログラミング演習あり。

4年次生：社会システムのモデル構築、あるいはデータ解析、もしくはモデル構築のためのプログラムの開発。

各自一つのテーマで個別的な指導が主に行われる。

3 使用テキスト

未定。

若林教官担当研究指導

1 研究主題

管理科学の基礎的研究。

対象とするシステム（国民経済、企業、計算機）の合理的、又は最適な運営について、抽象的モデルを設計、操作することにより、追求する。

2 指導要領

(イ) 基礎的な数学、プログラミング、経済分析の演習。

(ロ) 下記のテーマについて、卒業論文の作成、報告。

数理経済学（均衡解の計算、情報経済学、不確実性、エネルギー）

数理計画法（多項式算法、相補計画、協力ゲーム、組合せ算法）

コンパイラ・インタプリタ（C, BCPL, LISP, Ada）など。

3 参考書

Knuth, D. E., Fundamental Algorithms, 2nd ed.

4 申込みの条件

管理科学科所属で向学心のある学生。

IV 一般教育ゼミ

一般教育ゼミ（ドイツ語中級）

講師 大塚 譲

すでにドイツ語Ⅱを修得し、さらにドイツ語に親しみたい人を対象とします。本年度は、エーリッヒ・ケストナーの自伝「私が少年だった頃」をテキストとします。何よりもドイツ語を学ぶ楽しさを知ってほしいという気持からこのテキストを選んでみました。参加希望者は、4月23日（金）12時30分に私の研究室に集って下さい。ゼミの日時などもその時に協議します。

一般教育ゼミ(中国語)

助教授 高田 時 雄

中国語Ⅱを履修したか、或いはそれに相当する学力を有すると思われる人を対象とします。新聞、雑誌などから出来るだけ時事的なものを教材として選びたいと考えていますが、参加者の要望も考慮することとします。

希望者は4月24日(土)12時半に研究室に集って下さい。その時に実施日時などを、相談の上決定します。